

# 令和2年度第3回 横浜市自転車等施策 検討協議会



令和3年3月18日



議事 1 各施策の実施状況について

議事 2 指標の達成状況について

議事 3 持続可能な自転車駐車場のあり方検討部  
会の報告について



# 横浜市自転車活用推進計画

【2019年度～2028年度】



## 1

# 各施策の実施状況 について



- ・ 幼児・児童向け交通安全教育の実施状況
- ・ 自転車交通安全啓発ツールの作成・活用
- ・ 思いやり SHARE THE ROAD 運動の推進
- ・ 自転車保険の加入促進



- ・ 自転車通行空間の整備状況
- ・ 重点エリアでの自転車通行空間の整備推進（戸塚駅周辺、鶴見駅周辺）
- ・ 横浜市道路構造の技術的基準に関する条例の改正



- ・ 放置自転車台数の推移
- ・ 駐輪場の附置義務制度の運用状況
- ・ 駅前再開発等の機会を捉えた駐輪場整備
- ・ 駐輪場整備費補助制度の効果的な運用



- ・ サイクルスタンプラリーの実施結果
- ・ 投稿型サイクリングマップ始動
- ・ 震災対策訓練での自転車の活用

# 令和2年度予算〈自転車活用施策の推進〉

施策項目		令和2年度予算	主な事業内容
まもる	自転車の交通ルール等の周知・啓発	1593万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールブック及び乳幼児保護者向け等世代別啓発チラシの配布</li> <li>・自転車交通安全教室の実施</li> <li>・「思いやりSHARE THE ROAD運動」の実施</li> <li>・自転車保険加入促進に向けた周知・啓発</li> </ul>
はしる	自転車通行空間の整備	4100万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要地方道横浜伊勢原(戸塚区)など4路線の整備</li> <li>・都心臨海部自転車ネットワーク構想の策定</li> </ul>
とめる	市営自転車駐車場の管理運営等	23億500万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営自転車駐車場の管理運営</li> <li>・市営自転車駐車場の維持・補修</li> <li>・自転車等放置防止対策</li> </ul>
いかす	自転車施策の推進	877万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車施策推進に係る調査</li> <li>・自転車活用推進イベント運営費</li> </ul>
計		23億7070万円	

# 令和3年度予算（案） 〈自転車活用施策の推進〉 <sup>7</sup>

施策項目		令和3年度予算	主な事業内容
まもる	自転車の交通ルール等の周知・啓発	1646万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレット及び乳幼児保護者向け等世代別啓発チラシの配布</li> <li>・自転車交通安全教室の実施</li> <li>・「思いやりSHARE THE ROAD運動」の実施</li> <li>・自転車保険加入促進に向けた周知・啓発</li> </ul>
はしる	自転車通行空間の整備	2800万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要地方道横浜伊勢原（戸塚区）など3路線の整備</li> <li>・自転車通行空間整備実行計画の策定</li> </ul>
とめる	市営自転車駐車場の管理運営等	22億7552万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営自転車駐車場の管理運営</li> <li>・市営自転車駐車場の維持・補修</li> <li>・自転車等放置防止対策</li> </ul>
いかす	自転車活用施策の推進	977万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車活用施策推進に係る調査</li> <li>・自転車活用推進活動費</li> </ul>
計		23億2974万円	

## ■方針

## ■具体の取組

### 方針 1

**交通ルールを  
学べる環境を  
つくる**

(1) 切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

(2) 教育・啓発・指導ができる体制づくり

### 方針 2

**安全・安心に  
自転車を利用  
できる環境を  
つくる**

(1) 自転車とクルマが互いに配慮できる意識啓発

(2) 自転車保険の加入促進

(3) 安全に乗るための点検・整備方法の周知啓発



# まもる 切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

## ● 各世代に応じた正しい自転車の乗り方等を伝える交通安全教育の実施

### 市の取組 世代別教育の充実

#### (1) 幼児・児童・生徒向け交通安全教育

- ・ 幼児交通安全教室（182回、幼稚園・保育園児）  
自転車利用時のヘルメット着用等
  - ・ はまっ子交通あんぜん教室（108回、小学生）  
自転車の乗り方指導
  - ・ 中学生・高校生向け教室（15回）  
自転車ルール・マナーの指導等
- ※新型コロナウイルス感染症対策を、実施したうえで、教室を開催



- ↓
- ・ 令和3年度は交通安全教室に加え、動画やTwitterなどSNSをさらに活用した啓発を進める

# まもる 切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

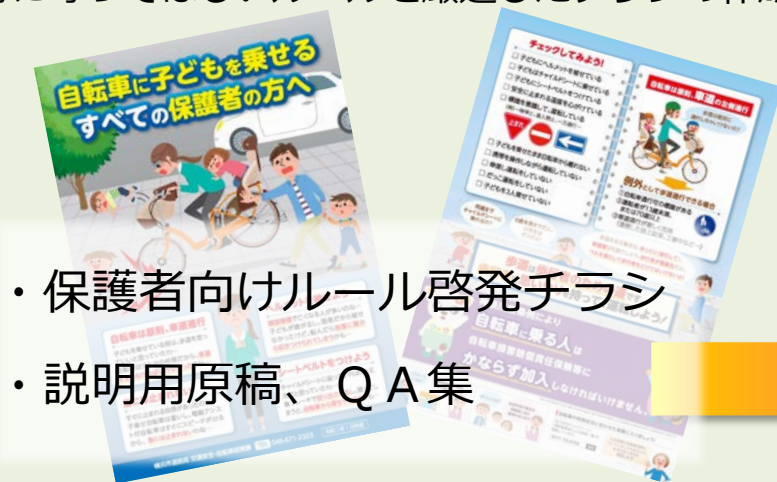
## (2) 自転車交通安全啓発ツールの作成・活用

- ・ 自転車リーフレット「自転車ルールのかほん」  
（日本語・英語・中国語・韓国語・やさしい日本語）、啓発チラシを交通安全教室の教材として活用するほか、区役所等で配布。
- ・ 新入学生全員に自転車交通安全を啓発するチラシを配布するなどの取組み引き続き実施



## 乳幼児保護者向けの取組み（令和元年度から開始）

特に守ってほしいルールを厳選したチラシの作成及び園への送付



- ・ 保護者向けルール啓発チラシ
- ・ 説明用原稿、Q A集

送付

説明資料があると、  
保護者に説明しやすい！



市内 幼稚園・保育所等 1,713園

# まもる 切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

## (2) 自転車交通安全啓発ツールの作成・活用

### 障がいのある中学生・高校生向けの新たな取り組み

- ・従来の中学生・高校生向け自転車交通安全啓発チラシをもとに、障がいのある人にも分かりやすい表現に置き換えたチラシを健康福祉局と協力して作成。  
作成したチラシを特別支援学校を通じて、新入学生に送付する予定（3月末）。
- ・保険加入から日常点検まで、分かりやすく伝える内容になっている。



## (3) 様々な機会を活用した交通安全啓発

### 自転車販売店と協力した新たな取り組み

- ・神奈川県自転車商協同組合を通じて、横浜市内の組合事業者（134店）に自転車保険啓発チラシ、自転車リーフレット及びSHARE THE ROADチラシ及びステッカーを送付し、来店者の方への配布等にご協力をいただいた。

# まもる 自転車とクルマが互いに配慮できる意識啓発

## ● 自転車とクルマ それぞれの運転者に向けた啓発

### 市の取組 「思いやり SHARE THE ROAD 運動」の推進

#### ・バス事業者との連携による啓発

バス車体への啓発ステッカー貼付

→横浜市交通局 約700台（令和3年3月末に貼付け予定）

- ・神奈川県自転車商協同組合を通じて、横浜市内の組合事業者（134店）に SHARE THE ROADチラシ及びステッカーを送付し、来店者の方への配布等にご協力をいただいた。（再掲）



ドライバーへの啓発と並行した  
 自転車利用者への基本的な通行ルール等の啓発が相互理解のカギ  
 ⇒引き続き、様々な交通事業者に協力をお願いしていくとともに、  
**運動の趣旨を周知するための取組**も併せて検討していく

自転車利用者からは「車道走行が怖い」という意見  
 一方で、  
 ドライバーからは「自転車の運転が怖い」という意見

# まもる 自転車保険の加入促進

## ● 自転車保険の加入率向上に向けた周知・啓発

### 市の取組 様々な機会での広報を展開

- (1) 広報紙を通じた啓発
- (2) 公共交通機関等でのポスター掲示等
- (3) ラジオ番組、Twitterなどを通じての啓発
- (4) キャンペーン等での啓発
- (5) 日々の交通安全教室を通じての啓発
- (6) 自転車保険への加入状況調査



加入率向上に向け継続的な取組み

加入状況調査結果の活用



# まもる 自転車保険の加入促進

## 令和2年度に実施した啓発について

加入動機となる項目  
(高額賠償リスクなど) を強調したチラシの作成



## 世代別に効果的な広報の実施

- ① 若年層：SNS、ネットニュースなどデジタル媒体
  - ・本市ホームページ
  - ・Twitter（随時）
- ② 中高年層：チラシ・ポスター・広報誌など紙媒体
  - ・広報よこはま（5月）
  - ・タウンニュース（5月、9月）
- ③ 全世代共通：テレビ、ラジオなど
  - ・ラジオ放送（5月、9月）
  - ・交通広告（7月、9月）
  - ・転入者向け区役所窓口配布（9区で実施）  
→令和3年度は13区で実施予定
  - ・神奈川県自転車商協同組合と協力した組合店への自転車保険啓発チラシの送付（再掲）

# まもる 自転車保険の加入促進

## 令和2年度調査の結果及び令和元年度調査との比較

### 概要

- ・ 令和2年度調査  
令和2年10月20日～11月19日まで、6歳以上の市民5,000人を対象に実施  
⇒回答者数は1,767人（**35.3%**）
- ・ 令和元年度調査  
令和元年7月26日～8月31日まで、6歳以上の市民10,000人を対象に実施  
⇒回答者数は2,528人（25.4%）

	令和元年度	令和2年度	増減
自転車保険加入率	44.6%	<b>69.2%</b>	24.6%
自転車保険加入義務化認知度	30.5%	<b>64.5%</b>	34.0%
自転車保険認知度	77.3%	88.6%	11.3%

自転車保険の加入率は**約7割**に増加

また、令和元年10月1日から自転車保険の加入が義務化されたことを、知っていると同答した人は、昨年度の2倍以上である**約65%**、自転車保険の認知度は**約9割**に増加  
引き続き、加入の必要性を訴え、加入率向上に向けた施策を推進していく

# まもる 自転車保険の加入促進

## ■ 自転車保険の世代別加入率

	令和元年度	令和2年度		増減	
18歳未満	54.1%		71.4%	17.3%	
18歳～20歳代	39.3%		<b>61.8%</b>	22.5%	
30歳代		平均	72.9%	平均	
40歳代	46.9%		70.6%		23.7%
50歳代			73.3%		
60歳代	40.3%		69.5%	29.2%	
70歳代以上	32.7%		65.0%	<b>32.3%</b>	
全世代	44.6%		<b>69.2%</b>	24.6%	

昨年度調査で加入率が最も低かった18歳～20歳代も、**約62%**に向上

70歳代以上の加入率は、昨年度の**約2倍**に向上

どの世代においても、令和元年度の調査から比べて**15%以上**も向上し、**全世代で加入率が60%以上**になるなど、加入率の底上げされた。特に昨年度の加入率が低かった**18～20歳代、70歳代以上の加入率**が大幅に向上した。引き続き、世代に応じた効果的な媒体を用いた広報を行い、加入率の向上を図る。



# まもる 自転車保険の加入促進

## 自転車保険の加入理由・未加入理由

### ■ 加入した理由

自転車事故による高額賠償などのリスクを避けたいから

52.3%

既に参加している保険に付帯していたから

38.0%

条例で義務化されたから

36.7%

その他として、

- ・車と同じなので
- ・万が一自分の過失で人にけがをさせた時に補償ができないのは申し訳ないからなどの意見あり

### ■ 加入しない理由

すぐに加入する必要はないと思うから

26.9%

自転車を利用する予定がないから

26.9%

事故を起こすと思わないから

19.2%

その他として、

- ・シェアサイクルの利用のみなので
  - ・業務でしか乗らないため
- などの意見あり

# まもる 自転車保険の加入促進

## 調査結果を踏まえた令和3年度の啓発方針

### ■ 加入動機につながる項目を強調

- ・ 高額賠償のリスク
- ・ 条例で義務化されたこと
- ・ 誰もが事故を起こす可能性

### ■ 世代別に応じた効果的な媒体を活用

- ・ 10～20歳代：SNS（Twitter、Facebook）、インターネットニュースなど
- ・ 30～50歳代：インターネットニュースなど
- ・ 60歳代：新聞、地域情報誌、雑誌、広報紙など
- ・ 70歳代以上：新聞、地域情報誌、雑誌、広報誌など
- ・ 全世代：テレビ、ラジオなど

令和3年度も  
加入状況調査を実施予定

次年度の啓発に反映

## ■方針

## ■具体の取組

方針  
1

地域の自転車  
ネットワークを  
つくる

(1) 重点エリアでの自転車通行空間の整備推進

(2) 都心臨海部における自転車利用環境づくりの推進

方針  
2

地域をつなぐ  
広域ネットワーク  
をつくる

広域的な自転車ネットワークの形成

方針  
3

安全で快適な  
自転車通行環境を  
つくる

自転車通行環境の快適性向上

- 令和2年度は下記の工事及び委託を実施

## 工事

路線名	整備箇所	整備形態	延べ延長
主要地方道環状4号線	泉区上飯田町	自転車専用通行帯	約1,100m
主要地方道山下本牧磯子線	中区本牧地区	矢羽根型路面表示	約1,600m
県道鶴見溝ノ口ほか2路線	鶴見駅周辺 (重点エリア)	矢羽根型路面表示	約3,000m
市道上永谷戸塚線	戸塚駅周辺 (重点エリア)	自転車専用通行帯 矢羽根型路面表示	約1,400m

## 委託

都心臨海部 自転車通行空間整備実行計画策定

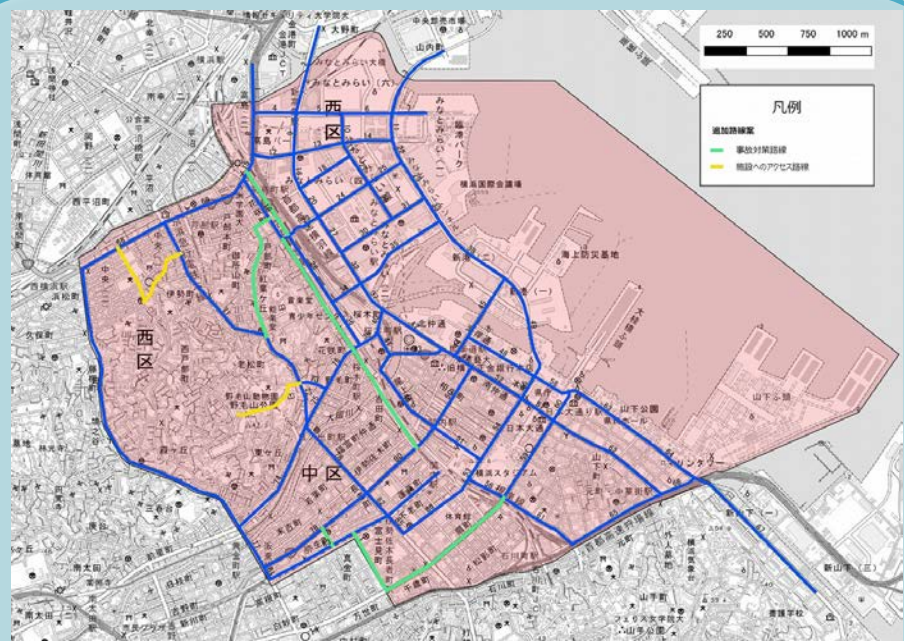
## 自転車通行空間の整備状況

### ■ 都心臨海部 自転車通行空間整備実行計画について

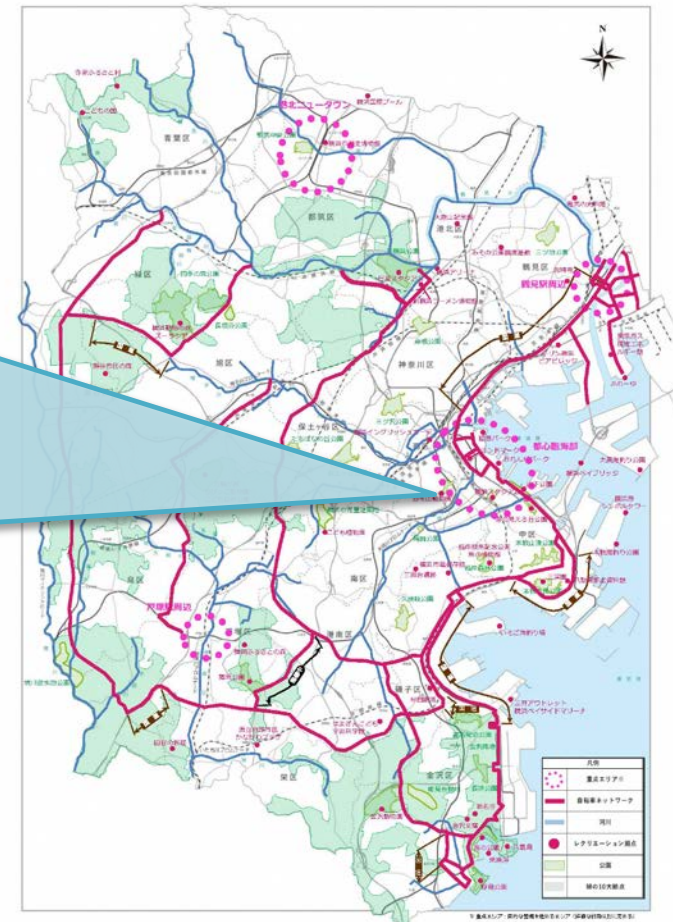
「都心臨海部自転車ネットワーク構想」を基に、

**自転車関連事故**の発生状況や**公共施設**、**自転車駐車場**へのアクセス等を考慮し整備路線を検討中。

R3年度内の計画策定を目指し、関係機関との調整を進めます。

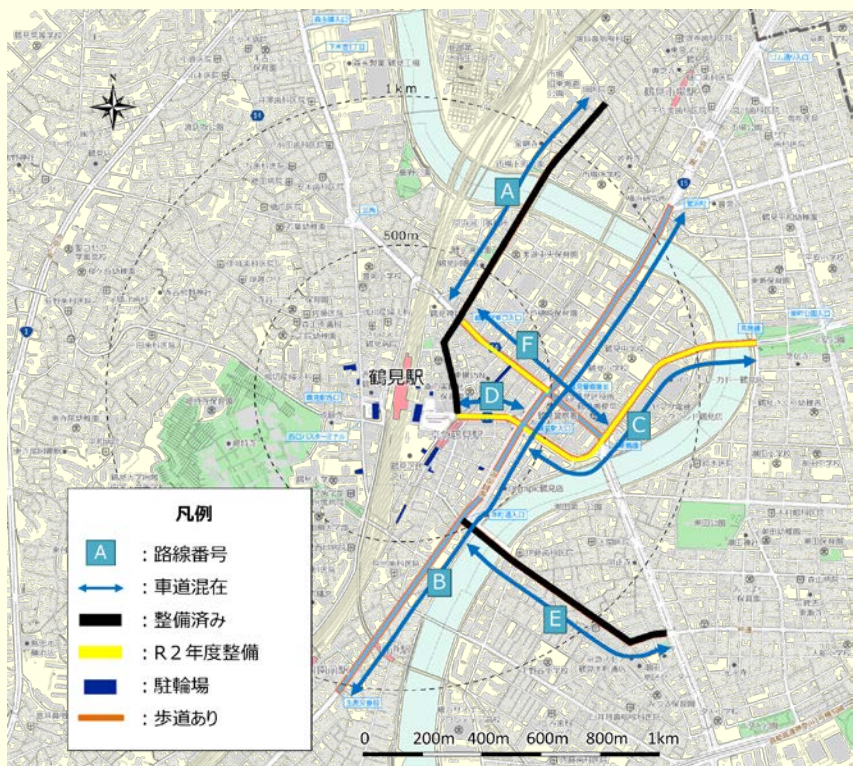


都心臨海部 対象区域



## ■重点エリアの自転車通行空間の整備進捗

鶴見駅周辺において矢羽根型路面表示の整備をしました。



鶴見駅周辺



## ■重点エリアの自転車通行空間の整備進捗

戸塚駅周辺において自転車通行空間整備中。



戸塚駅周辺



整備イメージ

# 横浜市道路構造の技術的基準に関する条例の改正

- 道路構造令の一部改正に伴う、横浜市道路構造の技術的基準に関する条例の改正  
(令和3年4月1日施行)

○ 改正内容 (国土交通省「自転車に関する道路構造令の改正 (平成31年4月25日)」より抜粋)

## 背景・必要性

- 過去10年間で、交通事故件数全体が約4割減少する中、自転車対歩行者の事故件数は約1割の減少にとどまっており、歩行者・自転車・自動車適切に分離された自転車通行空間の整備が重要。
- 用地上の制約から、自転車道の整備は全国的に進んでおらず、幅員がより狭くてすむ自転車専用通行帯 (道交法に基づく通行区分の指定) について、道路構造令に新たに「自転車通行帯」として位置付け、自転車通行空間の整備を加速する必要。
- 道路構造令の改正を踏まえ、地方公共団体において、都道府県道及び市町村道の構造の技術的基準を定める条例の改正について手続き中。

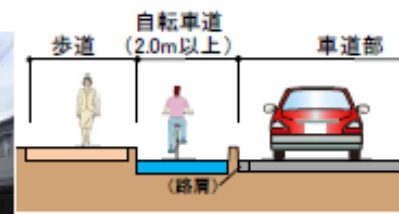
## 改正概要

- 歩行者・自動車から自転車の通行を分離する必要がある場合には、自転車通行帯を設置。
- ただし、自動車との関係で自転車の安全性を確保する必要がある設計速度60km/hの道路には、引き続き、車道との間を工作物により分離した自転車道を設置。

【自転車通行帯】(新たに規定)



【自転車道】





## ■方針

## ■具体の取組

### 方針 1

目的に応じた  
駐輪場の「量」  
を確保する

(1) 買い物等の集客施設での利用に応じた駐輪場の確保

(2) 鉄道利用等に対応した駐輪場の拡充

### 方針 2

サービスの  
「質」を高める

(1) 市営自転車駐車場のサービス向上

(2) 持続可能な市営駐輪事業のしくみ構築

### 方針 3

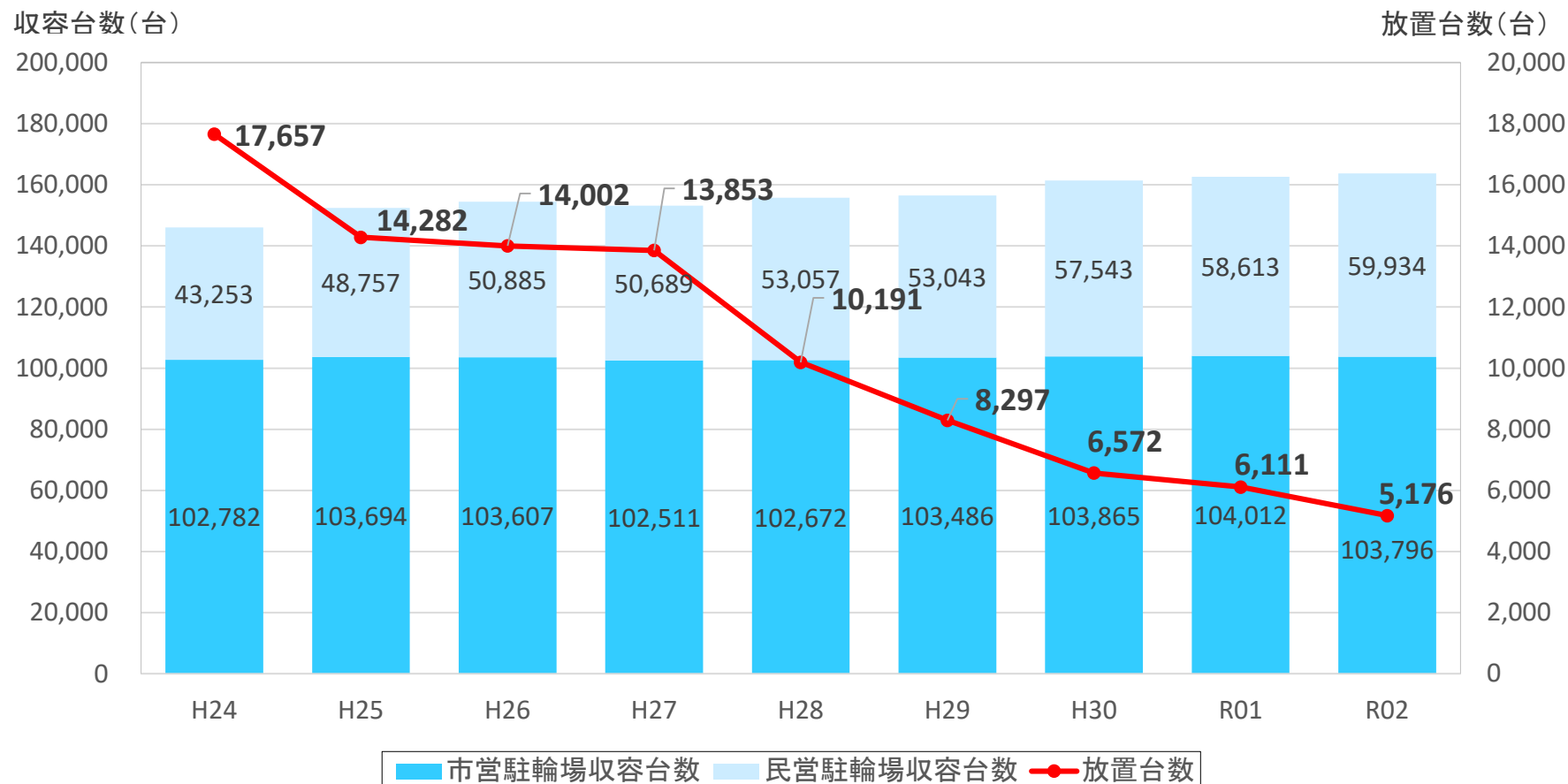
まちに適した  
駐輪対策を進める

地域、民間、行政の連携による駐輪対策の実施

## とめる

## 放置自転車台数の推移

- 放置自転車台数はR2年度も引き続き減少しており、前年度と比較して約1,000台減少



※市営駐輪場は無料駐輪場含む

- 市営自転車駐車場は、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者数が減少

	自 転 車 (4月から12月までの累計)					
	一時利用 (利用台数) ※単位：台			定期利用 (販売件数) ※単位：枚		
	R2	R1	前年比	R2	R1	前年比
累計	3,205,086	4,261,620	▲24.8%	167,105	223,862	▲25.4%

※定期利用：1か月定期・3か月定期あり

- 駐輪場の附置を義務付ける条例の義務規定を適用した運用を令和元年度から開始
- 該当する施設の新築・増築の機会を捉えて、附置義務による駐輪場の整備を促進

### 駐輪場附置義務条例 適合確認件数等（令和2年4月～令和3年1月末）

	件数	附置台数	設置台数
集客施設	24 件	1,242 台	1,285 台
共同住宅等	245 件	5,435 台	6,724 台
複合施設※	6 件	1,411 台	1,882 台
<b>合計</b>	<b>275 件</b>	<b>8,088 台</b>	<b>9,891 台</b>

【計画指標値】  
 附置義務条例による  
 集客施設の駐輪場収容  
 台数の増加 7,200台  
 (2021年度末時点)

※ 1つの施設内に集客施設と共同住宅等が両方含まれるもの

- 東神奈川一丁目地区市街地再開発事業の一環として、東神奈川駅東口に新たに市営自転車駐車を開設



### 東神奈川駅東口第二自転車駐車場

場所：神奈川区東神奈川1-8

開業日：令和2年11月1日

収容台数：102台（自転車：70台 バイク：32台）

## とめる

## 駐輪場整備費補助制度の効果的な運用

- 民営自転車駐車場の整備促進を目的に、補助制度を運用
- 大倉山駅前での民営駐輪場の整備について補助を実施



## サイクルプラザ大倉山

場所：港北区大倉山2-4-15

開業日：令和2年7月22日

収容台数：119台（自転車のみ）



令和2年8月時点

## ■方針

## ■具体の取組

### 方針 1

健康的な  
「ライフスタイル」  
にいかす

(1) 自転車を活かした健康づくりの支援

(2) サイクルスポーツへの興味を高める取組推進

### 方針 2

横浜らしい  
「まちづくり」  
にいかす

(1) 観光や賑わいのあるまちづくりでの自転車活用の推進

(2) まちづくりと連携した自転車活用の推進

# サイクルスタンプラリー実施概要

横浜、横須賀の魅力再発見に加え、3密を回避しながら運動不足も解消できるイベントとしてサイクルスタンプラリーを開催。

開催期間：令和2年9月16日（水）～12月15日（火）

主催：横浜市道路局、横須賀集客促進・魅力発信実行委員会

スタンプ設置箇所：横浜市内 5箇所、横須賀市内 5箇所（合計10箇所）

参加者数：1,351人（アンケート回答者数：597人）



スタンプを取得する参加者の様子





社会情勢及び前回の実施結果を踏まえ、今回は以下の点を変更して実施。

① デジタルスタンプラリーの導入（接触機会の削減）

台紙によるスタンプ取得からデジタルスタンプラリーに変更し接触機会を削減

② 広く市民の参加を促すための工夫

- ・スタンプポイント箇所数の変更（16箇所 → 10箇所）
- ・先着参加賞の取得条件を緩和（両市で2箇所の合計4箇所 → いずれかの市で2箇所）
- ・ベイバイクでの周遊を想定したスタンプポイントを設け、サイクリングマップを作成

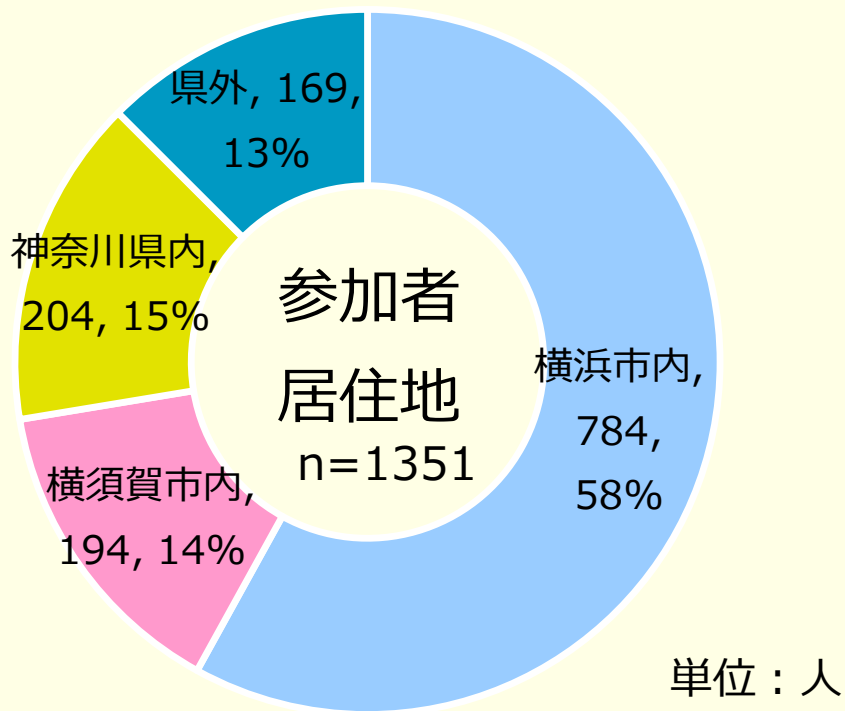
③ イベント期間中、スタンプポイント施設にサイクルスタンドの貸し出し

市内3箇所のスタンプポイントにサイクルスタンドを設置

- ・横溝屋敷
- ・横浜開港資料館
- ・帆船日本丸・みなと博物館



◆ 参加者は神奈川県在住者が87%を占め、横浜市内の参加者は58%であった。



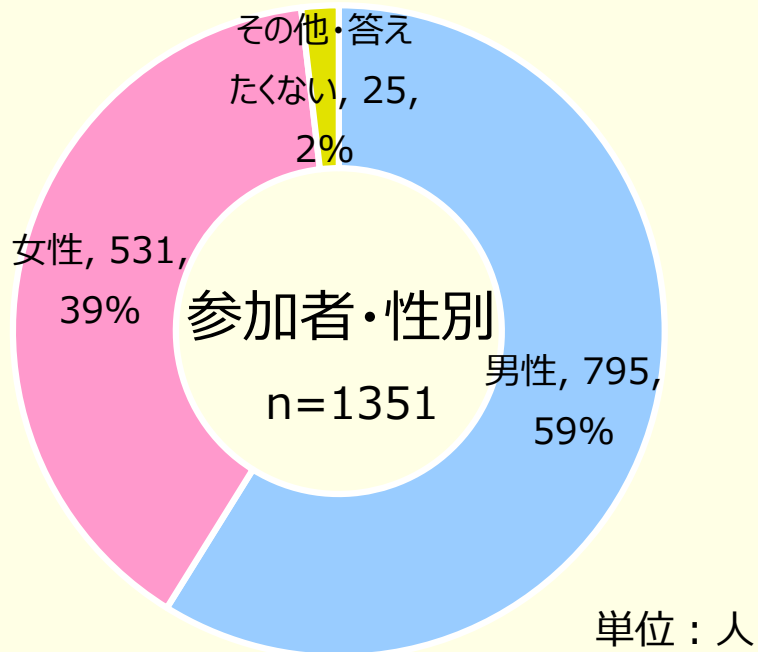
神奈川県内

川崎市	19	三浦郡葉山町	5
相模原市	11	茅ヶ崎市	4
大和市	11	小田原市	4
逗子市	10	秦野市	4
藤沢市	10	その他	24
鎌倉市	5		

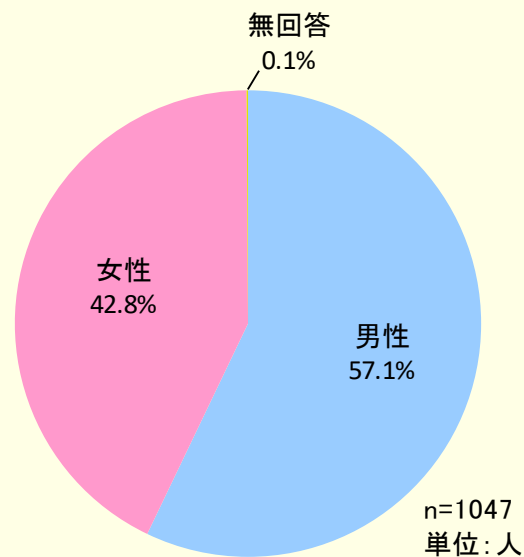
(単位：人)

- ◆ 男性が約 6 割、女性が約 4 割だった。
- ◆ 男女比は前回とほぼ同様であった。

【第 2 回】

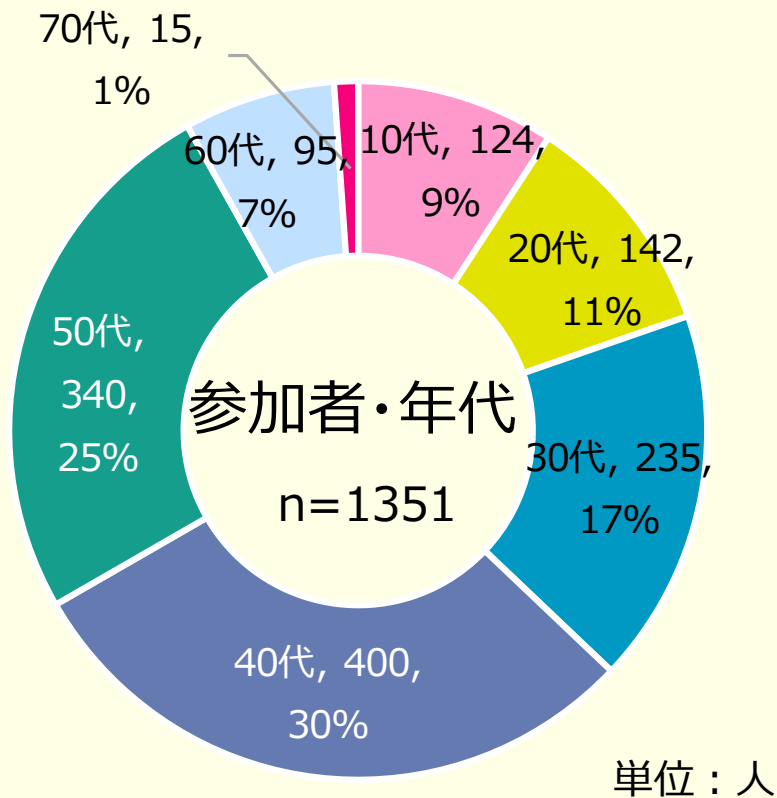


【第 1 回】

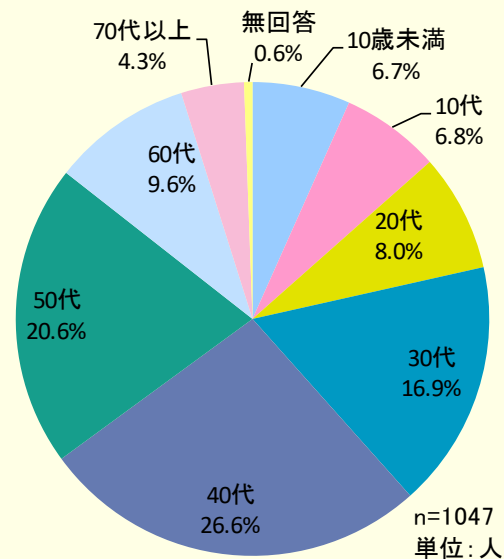


- ◆ 全世代からの参加があった。40代、50代が最も多く、あわせて過半数を占めた。
- ◆ 前回と比べ、10代・20代の参加者割合がやや増加した。

【第2回】



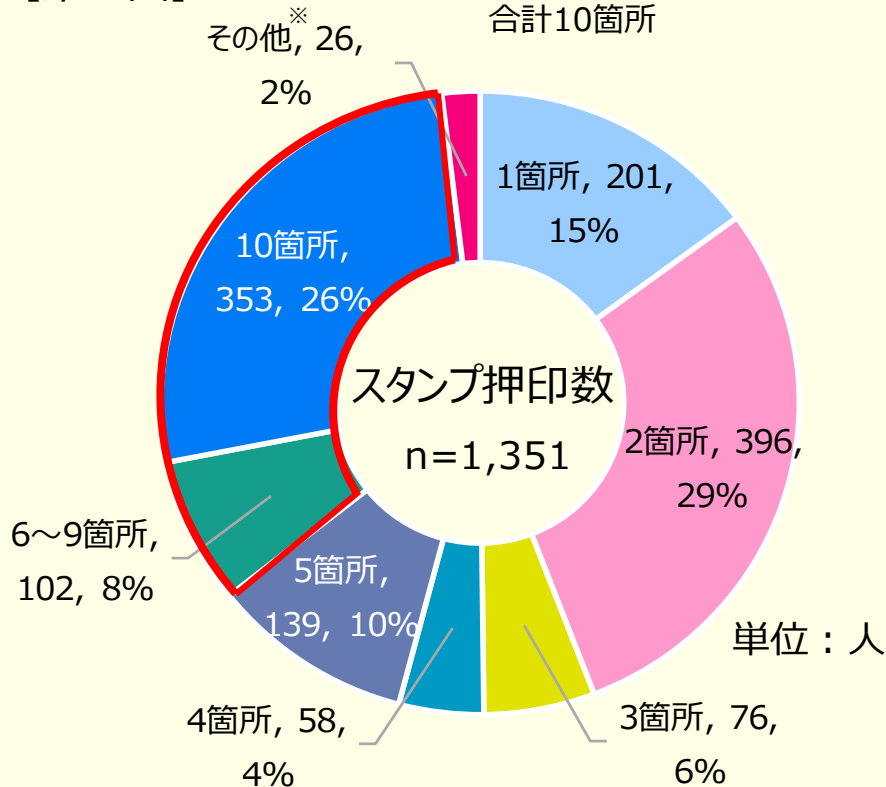
【第1回】



- ◆ 先着参加賞に該当する「2箇所」を回った参加者が最も多かった。
- ◆ 10箇所全て回った参加者は26%を占めた。
- ◆ 前回と比べ、半数以上スタンプを取得した参加者の割合が減少した。

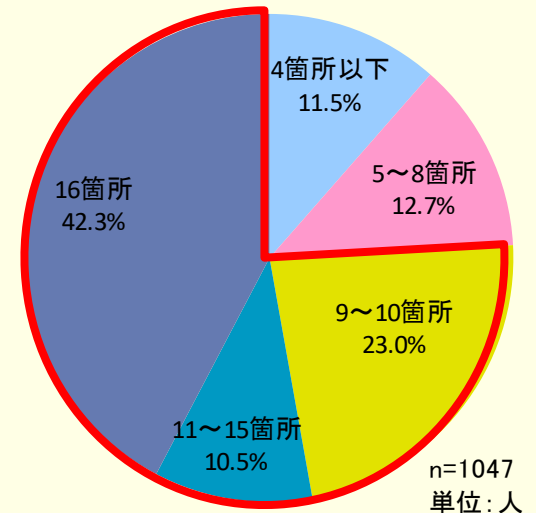
【第2回】

※第2回は横浜市5箇所、横須賀市5箇所の合計10箇所



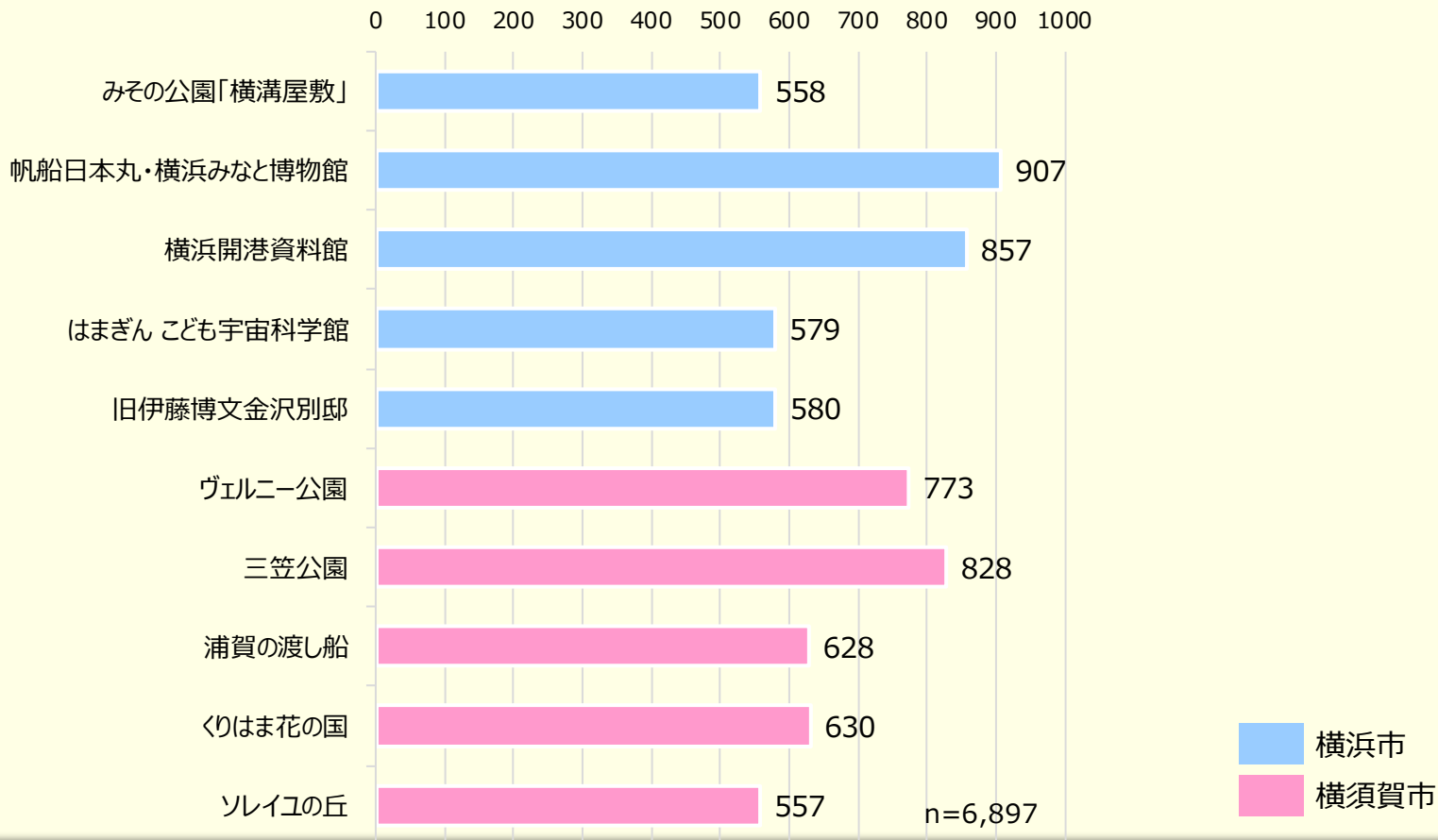
【第1回】

※第1回は横浜市8箇所、横須賀市8箇所の合計16箇所



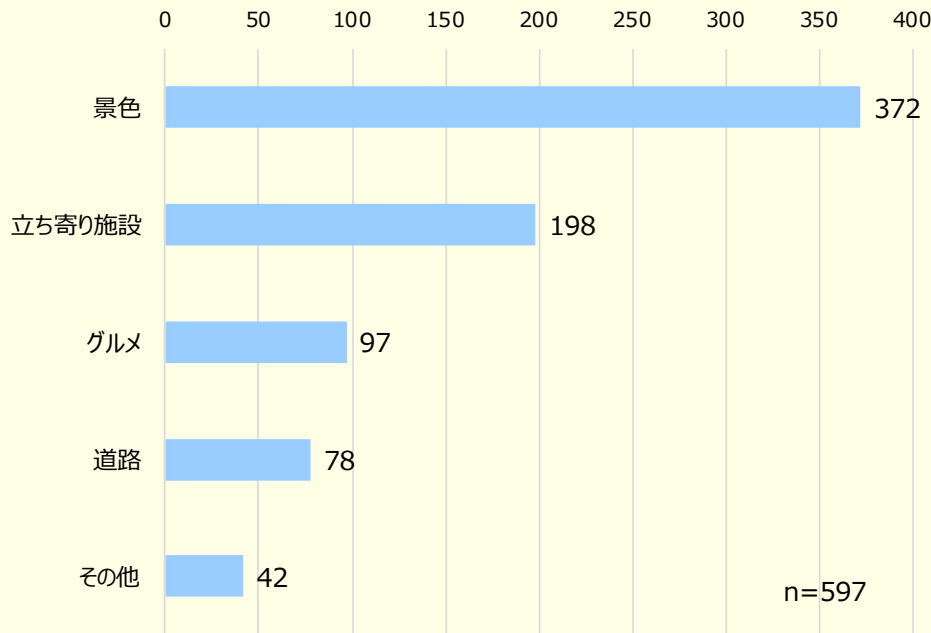
※その他：スタンプラリーを2周以上した参加者

◆ 横浜市では「帆船日本丸・横浜みなと博物館」「横浜開港資料館」、横須賀市では「三笠公園」「ヴェルニー公園」でのスタンプの押印が多かった。

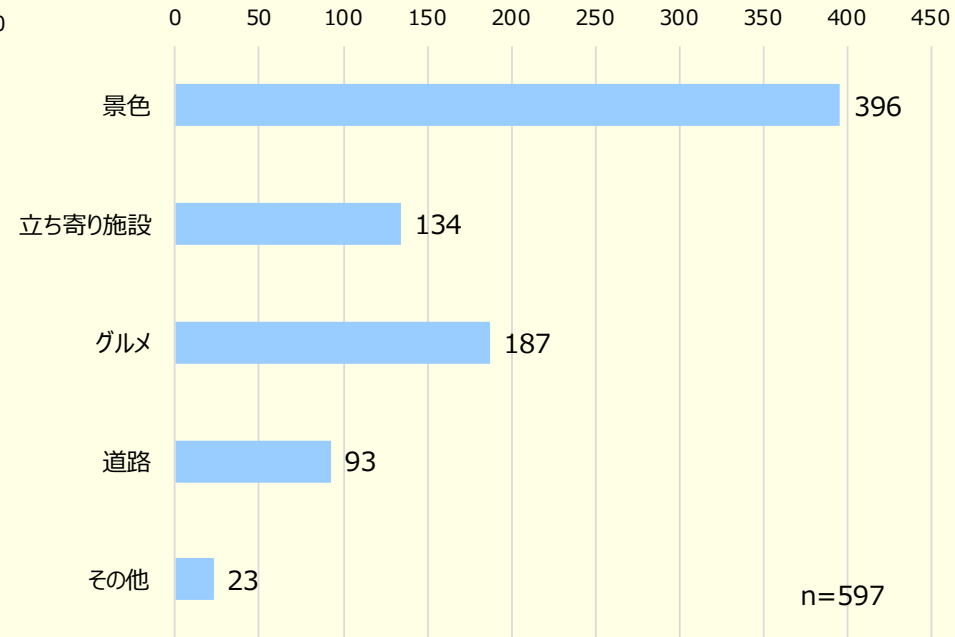


- ◆ 2市ともに「景色」が最も多かった。
- ◆ 次いで、横浜市では「立ち寄り施設」、横須賀市では「グルメ」が多かった。

【横浜市】

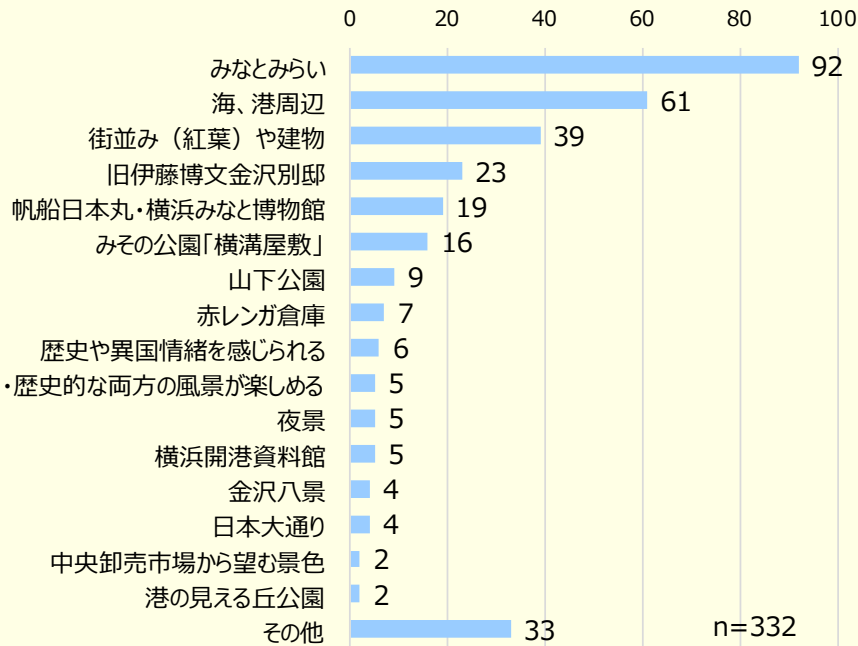


【横須賀市】



◆ 2市ともに、海や港周辺の景色が好評であった。

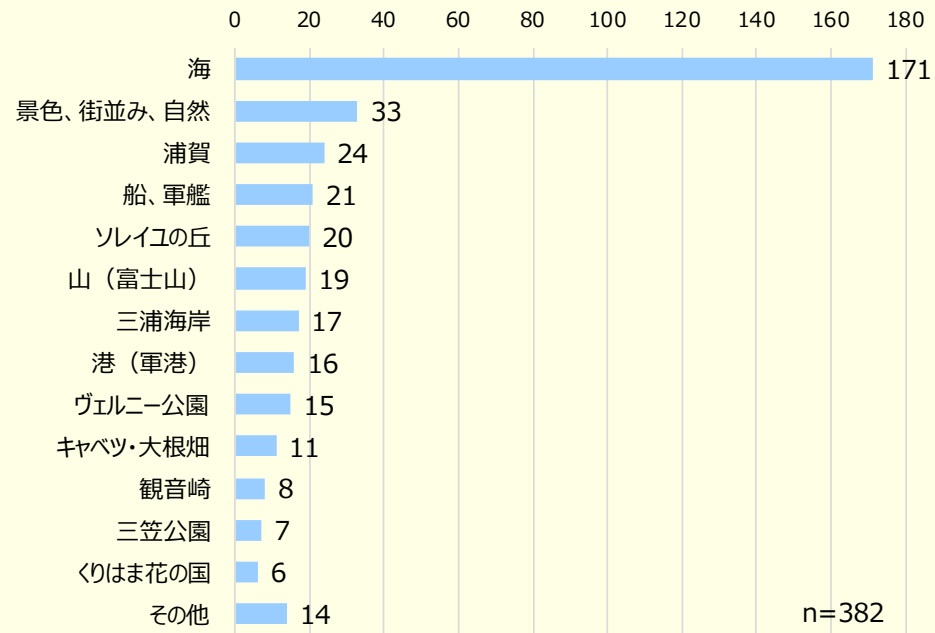
### 【横浜市】



※「その他」の主な回答

自然・緑が豊か
普段行かないところ・知らないところに行けてよかった

### 【横須賀市】



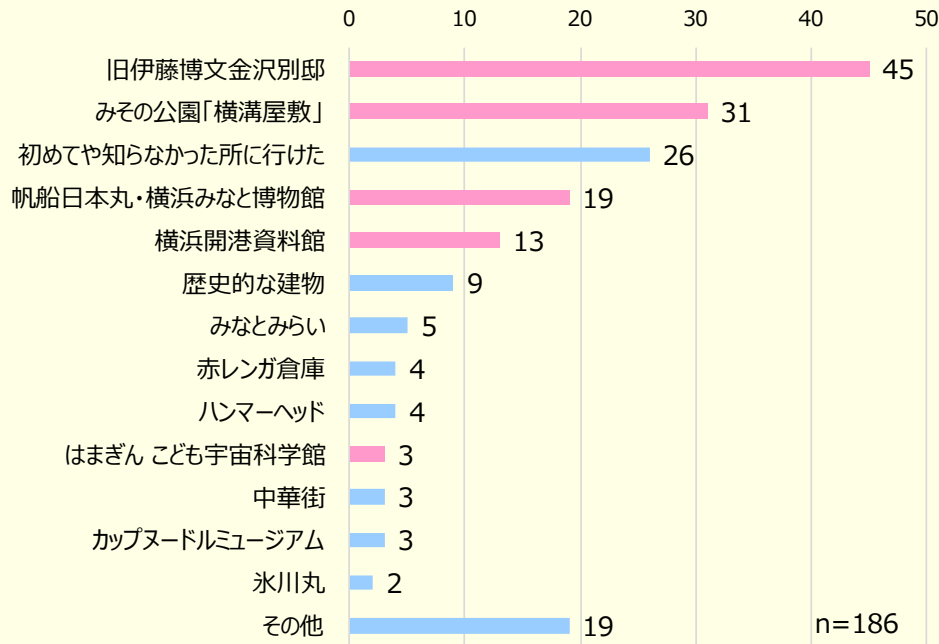
※「その他」の主な回答

ペリー通り
立石



◆ 金沢別邸や横溝屋敷に魅力を感じた参加者が多かった。

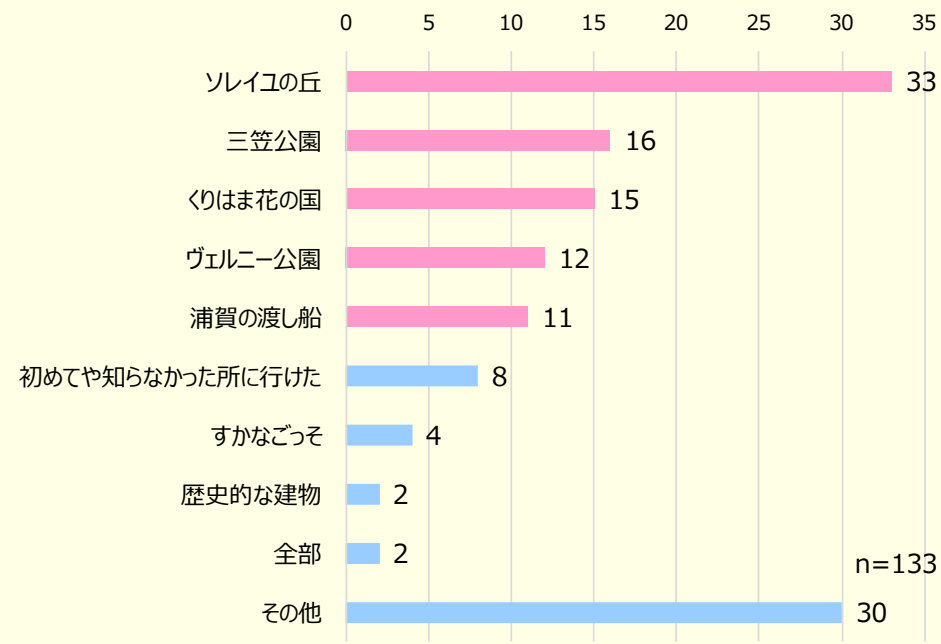
### 【横浜市】



※「その他」の回答  
(回答数1~2)

三井アウトレットパーク	本牧ムーンアイズ
コレットマーレ	山下公園
伊勢佐木町商店街	南部市場
野口英世記念館	英国館

### 【横須賀市】

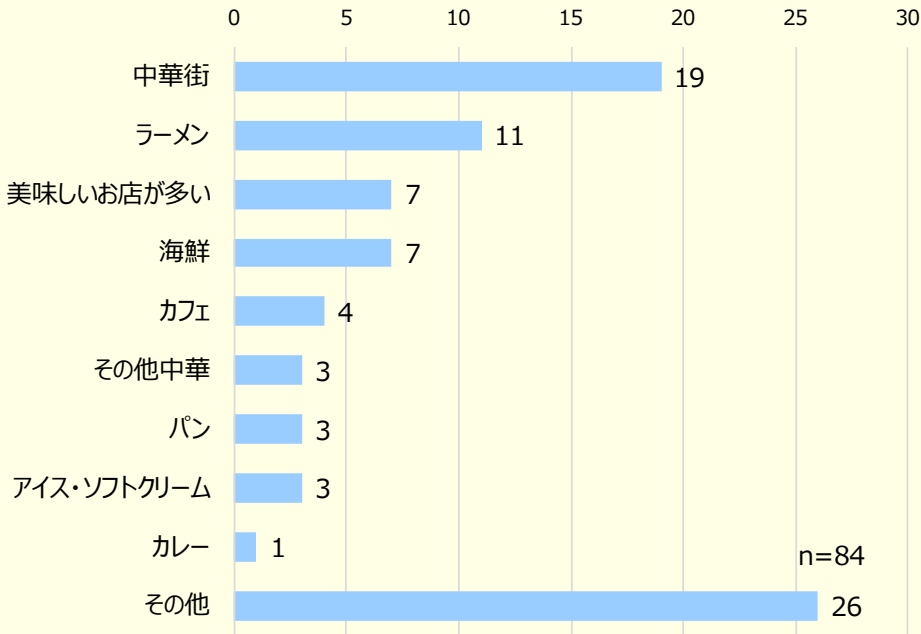


※「その他」の回答  
(回答数1~2)

スパッソ	横須賀美術館
ベリー公園	葉山マルシェ
コースカ	叶神社
うみかぜ公園	

◆ 横浜市は「中華街」、横須賀市は「海鮮・寿司」の人気が高い。

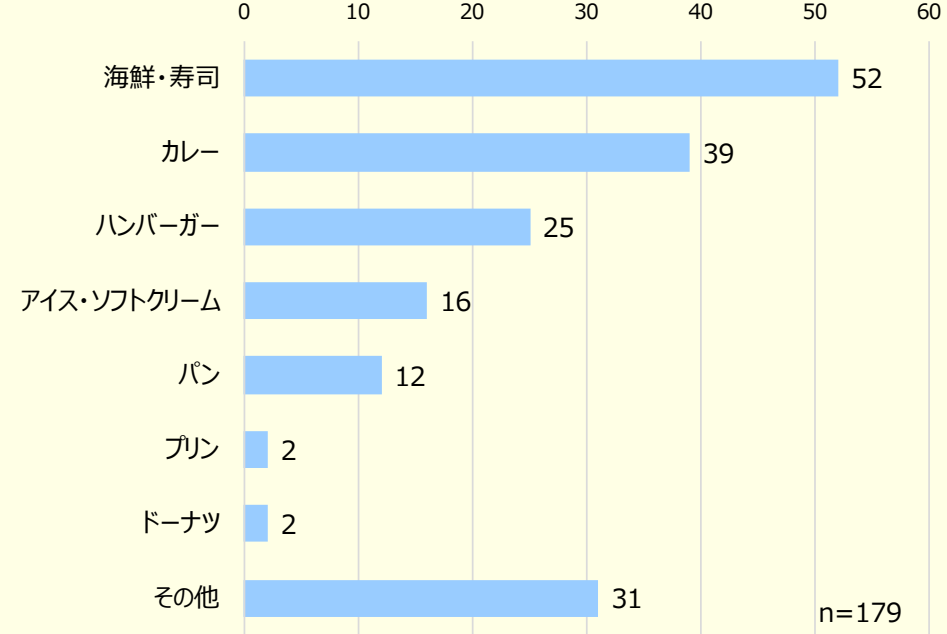
【横浜市】



※「その他」の主な回答

魅力的なお店が多い
おしゃれなカフェ

【横須賀市】

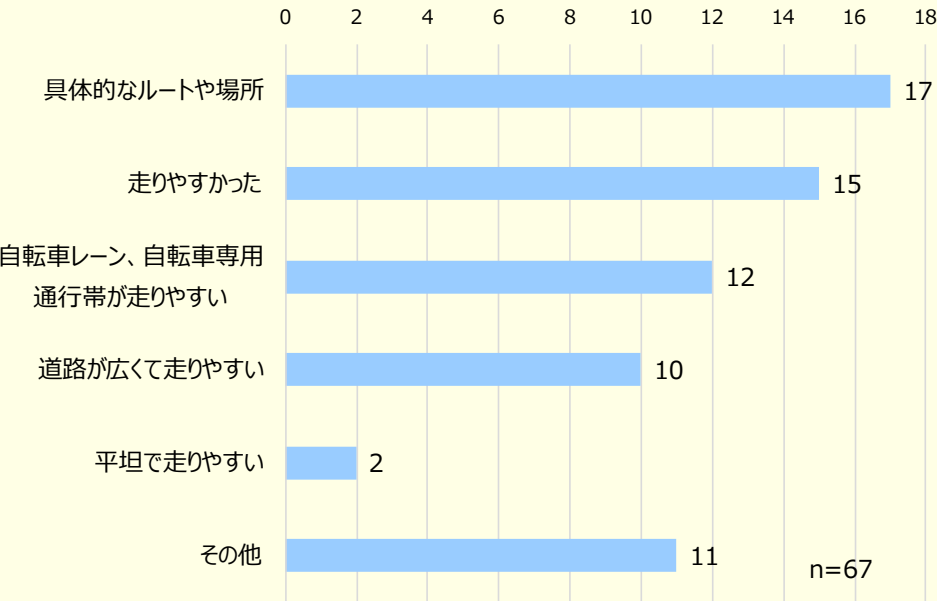


※「その他」の主な回答

おいしいものがたくさんあった
ヴェルニー公園

◆ 横浜市・横須賀市ともに、具体的なルート・場所の回答が最も多く、「走りやすかった」という回答が2番目に多かった。

### 【横浜市】

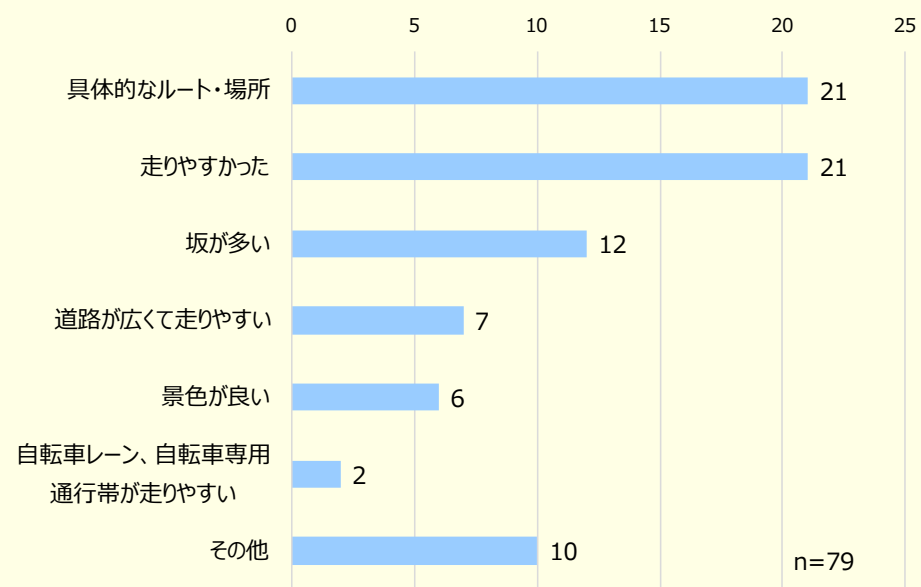


※「具体的なルート・場所」の主な回答

みなとみらい

銀杏並木

### 【横須賀市】

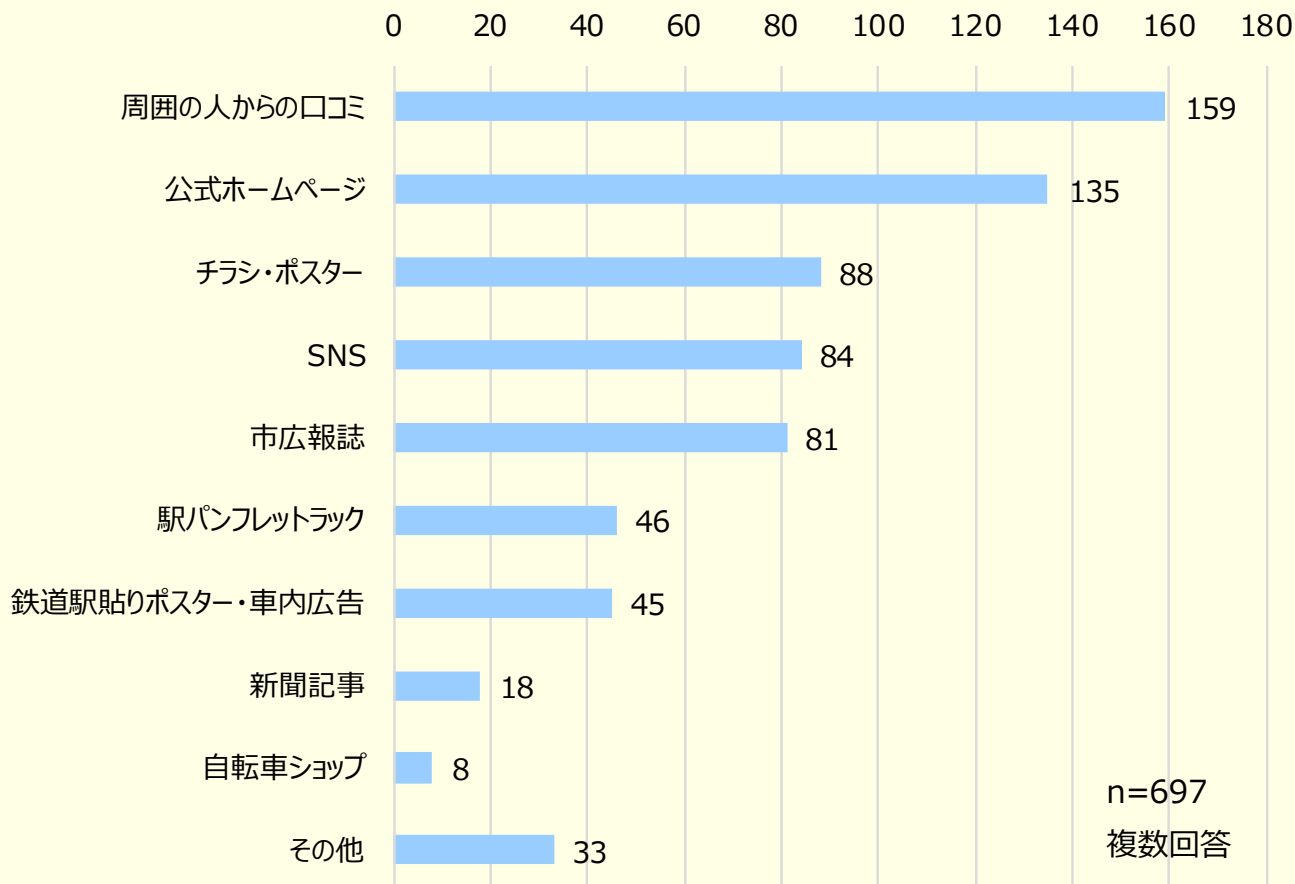


※「具体的なルート・場所」の主な回答

馬堀海岸

海岸線

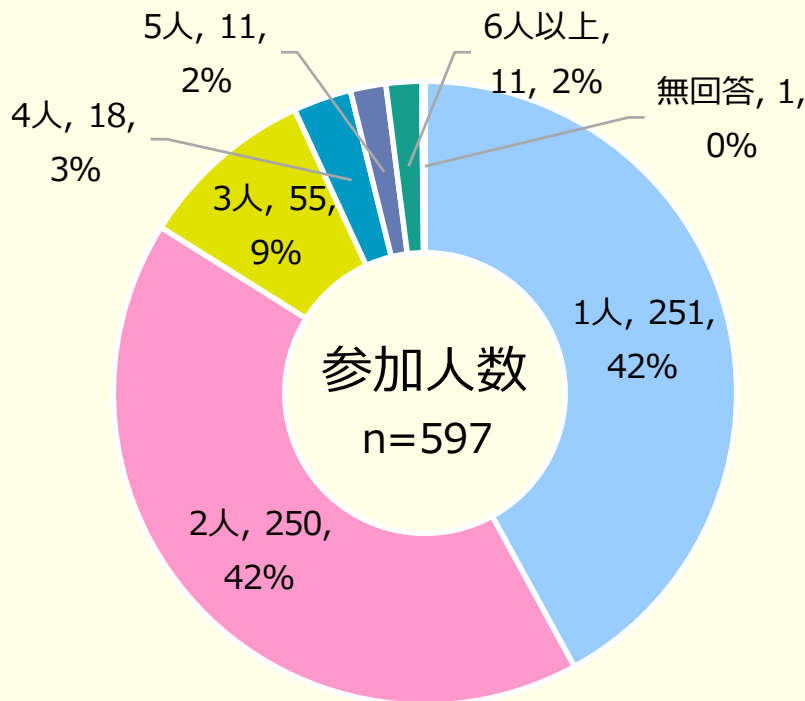
- ◆ 口コミや公式HPが多く、チラシやSNS、市広報誌も次いで多かった。
- ◆ 電子スタンプラリーという特性もあり、口コミ、公式HP、SNSが上位となったと思われる。



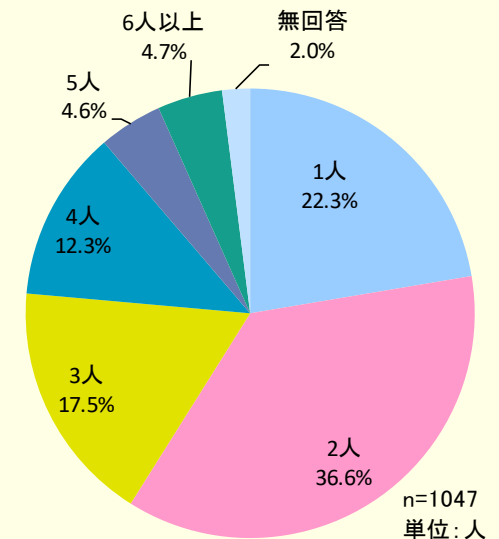
その他の主な回答：  
 ・日本スタンプラリー協会  
 ・自転車系情報サイト  
 ・WEB検索  
 ・スタンプ施設で見かけた 等

- ◆ 1人または2人での参加がほぼ同数で84%を占める。
- ◆ 前回と比較すると、1人での参加割合が大きく増え、3人以上での参加は減少した。新型コロナウイルス感染防止対策の影響と推察される。

【第2回】

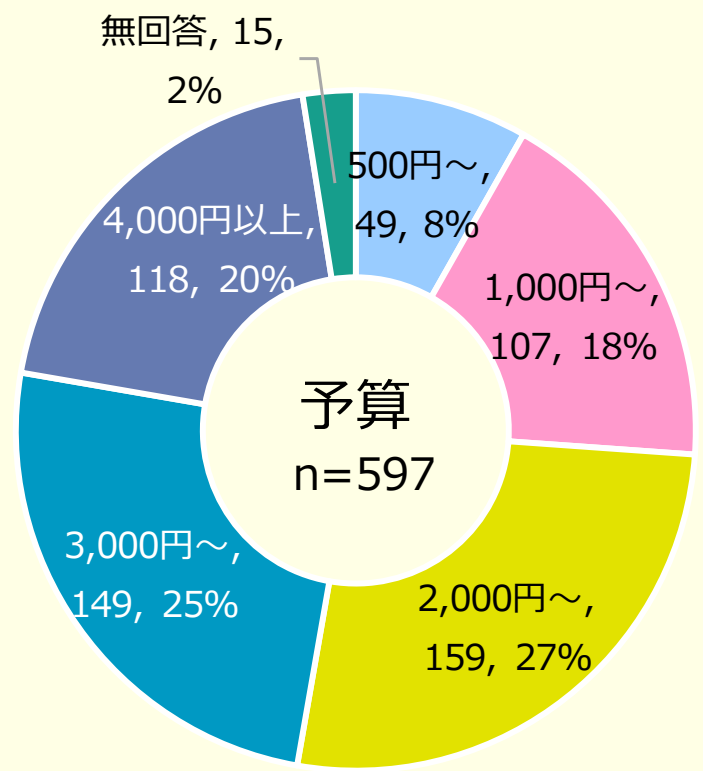


【第1回】

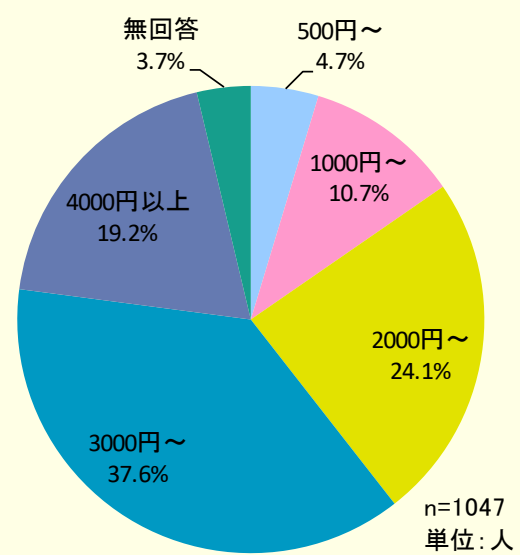


- ◆ 2,000円以上4,000円未満の参加者が52%を占めた。
- ◆ 前回と比較し低額化した。

【第2回】

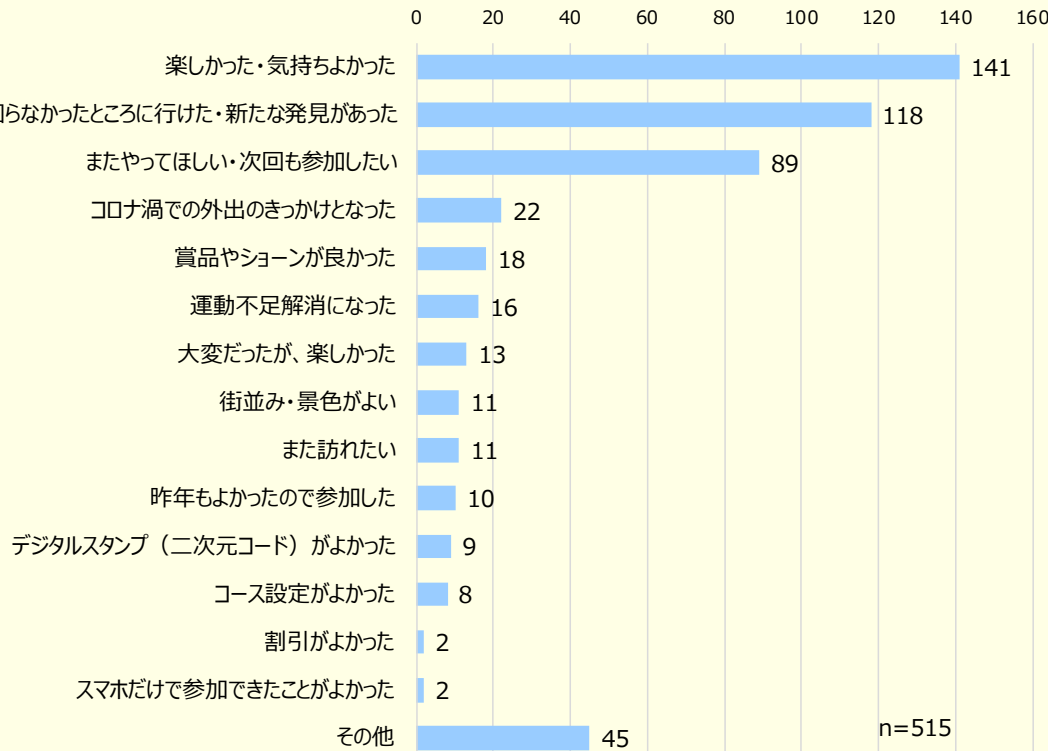


【第1回】



◆ 「楽しかった、気持ちよかった」「新たな発見があった」「またやってほしい」などの意見が多くを占めた。また、コロナ渦での運動効果をあげる意見も見られた。

### 【良かったことなど】



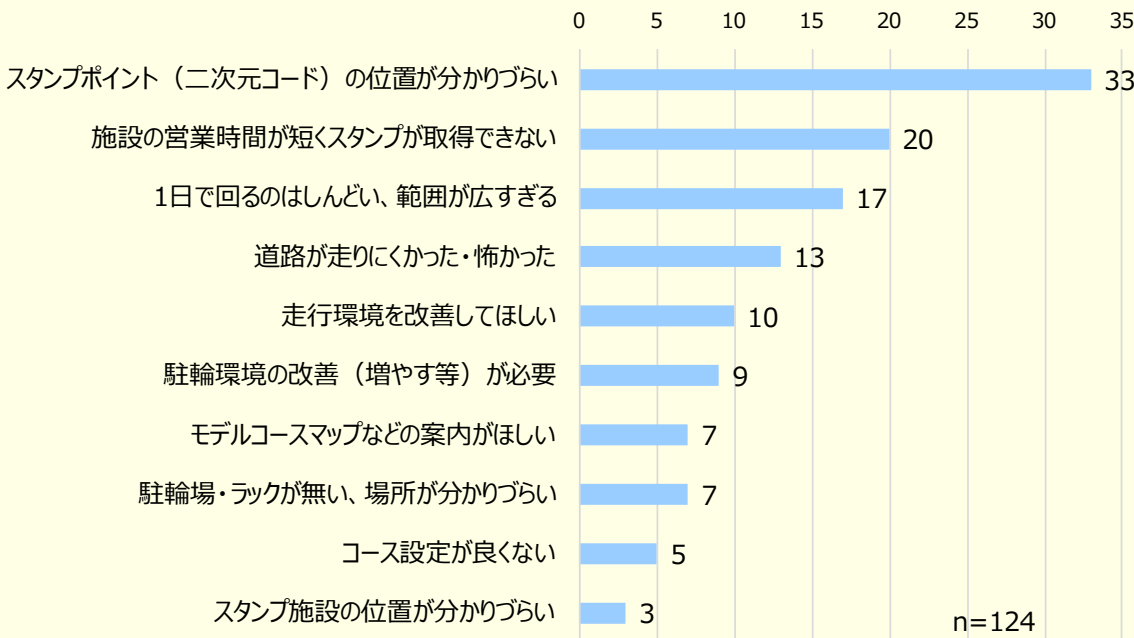
### 【感想抜粋】

- 初めてサイクルスタンプラリーだったが、目標を達成するためにサイクリングをするのも楽しいと思った。
- このイベントがなければ知らなかった名所に行けたこと、サイクリングで自力で行けたことがとても楽しく、また企画してほしい。
- ランチを楽しみながら巡れるので次回を楽しみにしている。
- コロナ渦で家にいると運動不足になりがちでストレスも感じるが、自転車は3密にならずにこれらを解消できるので素晴らしい。
- デジタルなスタンプラリーも面白かった！完成したショーの画像もかわいい！
- サイクルスタンドも設置してあり助かった。

◆ 「二次元コードの設置場所が分かりづらい」「施設の営業時間が短くスタンプが取得できない」「範囲が広すぎる」などの意見があった。

【不便に感じたことなど】

【感想抜粋】



- スタンプを取得できる場所が分かりにくい場合が多いと感じた。もっと派手に宣伝しても良いのではないかと思う。
- 休館日や時間外でも大丈夫なように、施設外に二次元コードがあると良かったが、それだと施設を見学せずに通過してしまうので悩ましいところ。
- かなり範囲が広くて大変だった。
- 自転車の通行空間整備が十分でなく、交通量の多い場所で、自動車との並走に不安を感じる事が多かった。



- ◆ 前年と同様、参加者からは「楽しかった」「知らなかったところに行けた」という意見を多くいただき、総じて高評価を得たイベントとなった。また継続的な開催を望む声も多かった。
- ◆ 「スマートフォンのスタンプへと変わり便利になった」など、デジタルスタンプとしたことは好評であり、運用上も大きな問題なく実施できた。
- ◆ コロナ渦での開催となったが、「自転車で運動不足が解消できた」「3密を避けてイベントに参加できた」などの意見も見られた。
- ◆ スタンプポイントやサイクルスタンドの設置場所を現場で分かりやすく表示することが課題である。
- ◆ 自転車通行空間や駐輪スペースの整備を引き続き進めていくことも必要である。

⇒ 今回の結果を踏まえ、次年度の自転車関連イベントについて検討中

- ◆ 新たに自転車ユーザー等が自転車に関する情報を投稿できる、参加型のサイクリングマップの運用を開始

#### 名称：

みんなの投稿でつくるヨコハマ・サイクリングマップ

#### 開設場所：

横浜市自転車ライフポータルサイト内

(URL：<https://bicycle.city.yokohama.lg.jp/toukou-map/>)

#### 運用開始日：

令和3年1月20日（水）

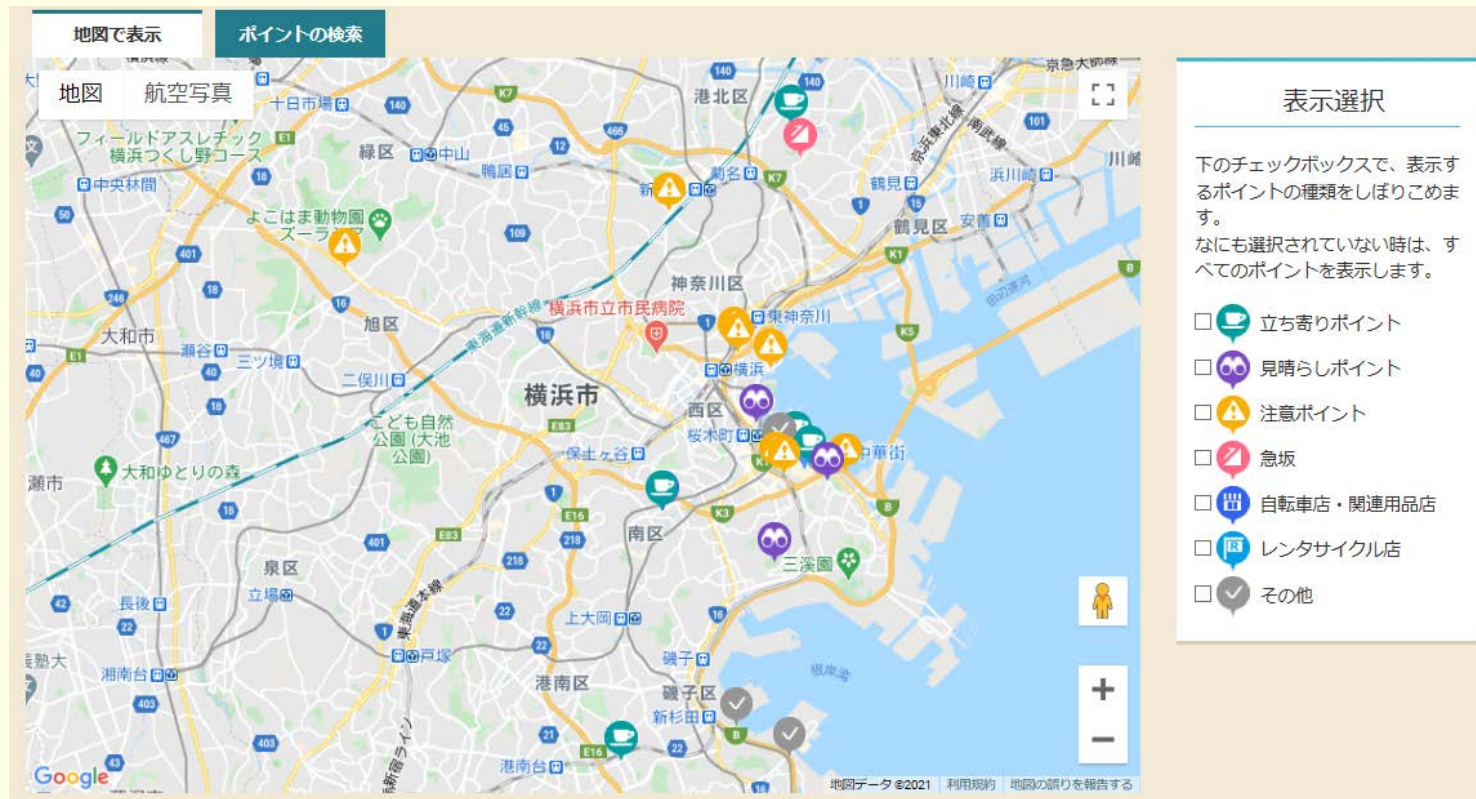
#### 対象者：

市内で自転車を利用する方  
自転車施策に関心のある法人等



### 趣旨：

- 自転車利用者自身が情報を投稿、情報交換できる場の提供
- 自転車を利用する上でおすすめの立ち寄りポイントや見晴らしポイントなどの情報を集約
- 「みんなの投稿でつくるヨコハマ・サイクリングマップ」としてサイト上で公開
- 集めた情報は、自転車通行空間の今後の計画の参考とする予定

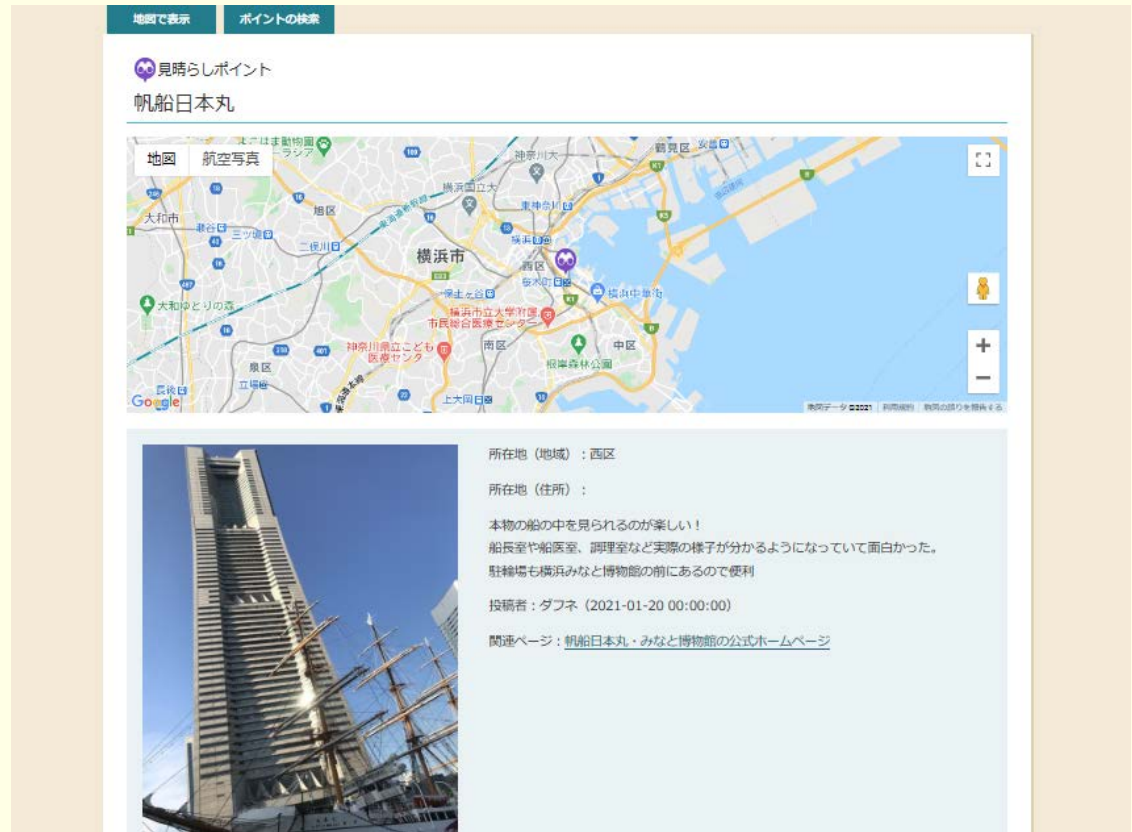


利用方法：

- 自転車を利用する上でおすすめの立ち寄りポイントや見晴らしポイントなど、自身の持つ情報を投稿（写真の投稿も可能）
- ポイントの種類  
立ち寄り、見晴らし、注意、急坂、自転車店・関連用品店、レンタサイクル店、その他

※マップの閲覧は誰でも可能。  
情報の投稿には登録が必要

3月10日時点投稿件数：46件



- 横浜都心部コミュニティサイクル事業「ベイバイク」のサイクルポート拡充、利用促進

・利用者のニーズを踏まえた上で、ポートの拡充及びエリアの拡大を図っていく。

利用状況	令和2年12月末	令和2年3月末
ポート数	100か所	95か所
自転車台数	1,000台	1,000台
会員登録者数	約139,000人	約115,000人
1日あたりの利用回数	3,100回(平均)	2,058回(平均)



- 震災対策訓練において電動アシスト自転車を活用

- 訓練実施日：令和2年11月20日

- 横浜建設業協会青葉区会の皆さんが、災害時に電動アシスト自転車で区内を巡回し、土木事務所へ参集する訓練を青葉土木事務所と合同で実施



- 区会単位で電動アシスト自転車を導入（18台）し、巡回に活用するのは横浜市内で青葉区会が初

#### 【訓練参加者の声】

- ◆ 青葉区は山坂が多いので電動アシスト自転車はとても便利
- ◆ 自転車であれば車が使えない場合でも、徒歩より早く楽に情報を集めることができる

2

# 指標の達成状況について

# 計画推進の指標達成状況について

自転車活用推進計画の指標						実現に関連するテーマ			
指標名	2021年度 (目標値)	2020年度	2019年度	計画策定時点	設定の考え方	まもる	はしる	とめる	いかす
自転車関係 交通事故件数	1,800件以下	1,593件 (2020年実績)	1,665件 (2019年実績)	2,093件 (2017年実績)		○	○		
自転車通行ルールの 認知度	75%	70.8%	68.9%	2019年度に実施予定の市 民向けアンケート調査結果 等により指標を設定	2028年度の目標を90%と設定 2019年調査時の意識が低い 層の認知度を2年間で10%程 度上げ、2021年時点で75%を 目指す	○			
自転車保険の 加入率	85%	69.2%	44.6%	2019年度に実施予定の市 民向けアンケート調査結果 により指標を設定	2028年度の目標を100%と設 定。 当初2年間で取り組みを強化	○			
自転車通行空間の 整備延長	43km (累計)	54km (累計)	46km (累計)	33km  (累計・2017年度末実績)			○		



自転車活用推進計画の指標						実現に関連するテーマ			
指標名	2021年度 (目標値)	2020年度	2019年度	計画策定時点	設定の考え方	まもる	はしる	とめる	いかす
放置自転車台数	6,600台未満	5,176台	6,111台	8,297台 (2017年実績)				○	
附置義務条例による 集客施設の駐輪場 収容台数の増加	7,200台	2,403台 (累計、2021年1 月末)	1,118台	—				○	
自転車関連イベント (「いかす」施策)の 開催件数 (市が関係するもの)	10件  (2019年度～ 2021年度累計)	5件(累計)	4件	—					○
自転車利用環境の 満足度	2019年より 向上	21.8% (まもる) 19.4% (はしる) 27.5% (とめる) 25.0% (いかす) 23.4% (全体)	22.0% (まもる) 22.1% (はしる) 36.0% (とめる) 26.0% (いかす) 26.5% (全体)	2019年度に実施予定の市 民向けアンケート調査結果 等により指標を設定	2028年度の目標を全体で50% に設定	○	○	○	○

## 自転車保険加入状況や利用環境満足度に関する意識調査の実施

■対象者：無作為抽出により市民5,000人に送付

■実施期間：令和2年10月～11月

■主な設問内容：

自転車を利用するとき気を付けていること
自転車保険への加入について
自転車の交通ルールの順守について
市内で自転車を利用するときの道路の安全・快適性
市内で自転車を利用するときの駐輪場の使いやすさ
健康づくりやまちづくり、観光への自転車活用について
新型コロナウイルス感染症の影響

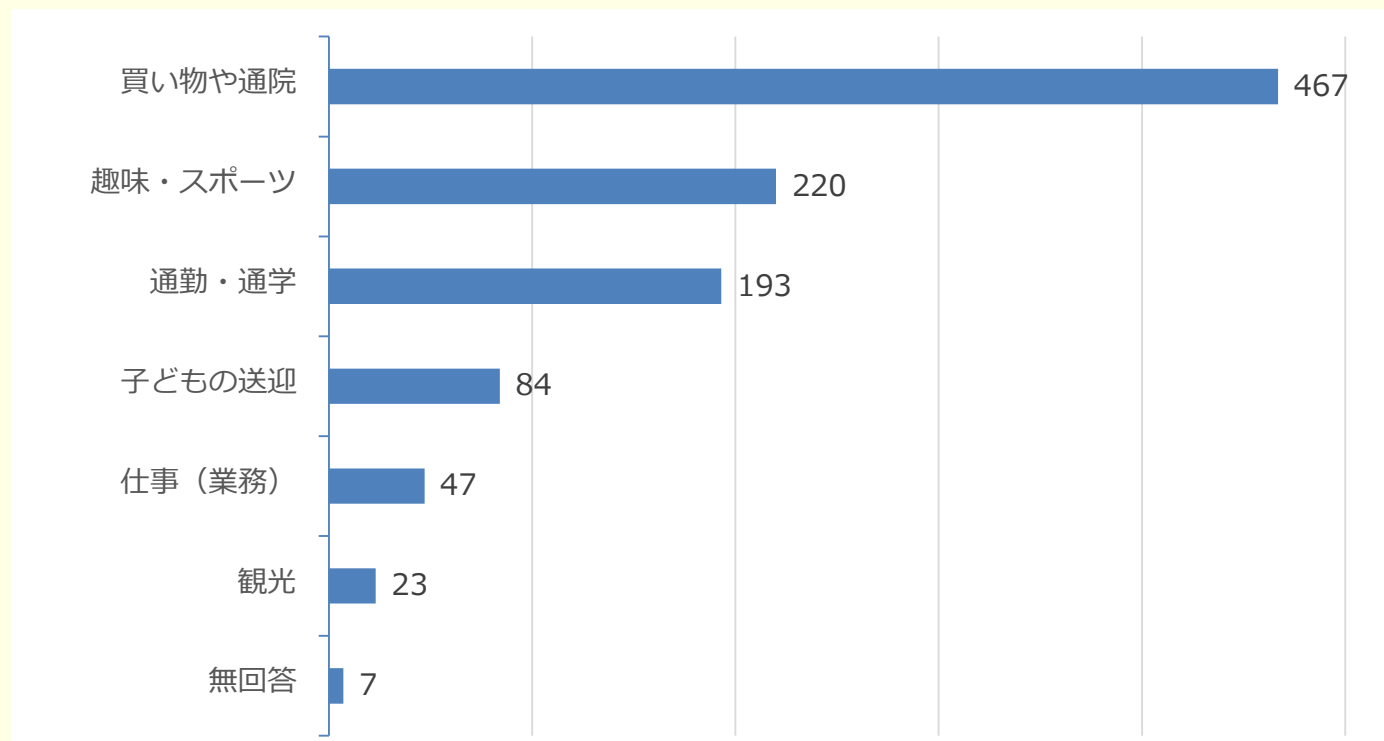
■回答者数：1,767人

\* 令和元年度から3年間継続して同様の意識調査を行い、達成状況を確認。

## ■ 自転車の利用場面に関して

問：あなたが自転車を利用するのはどのような場面ですか。

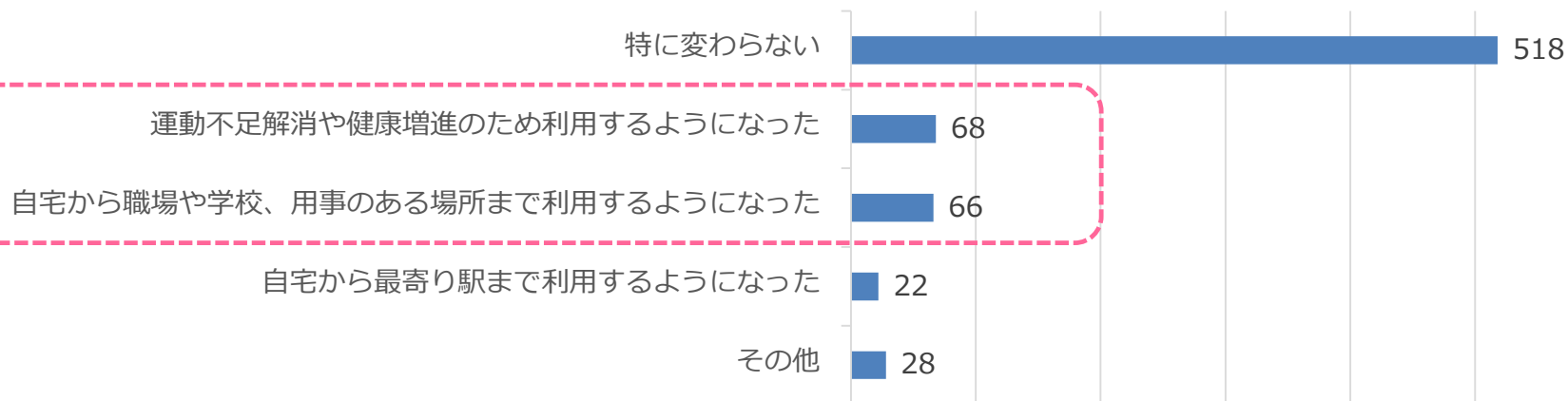
※自転車利用者だけに質問  
(N=666、複数回答可)



## ■新型コロナウイルス感染症の影響

問：新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、自転車を利用する機会が増えましたか。

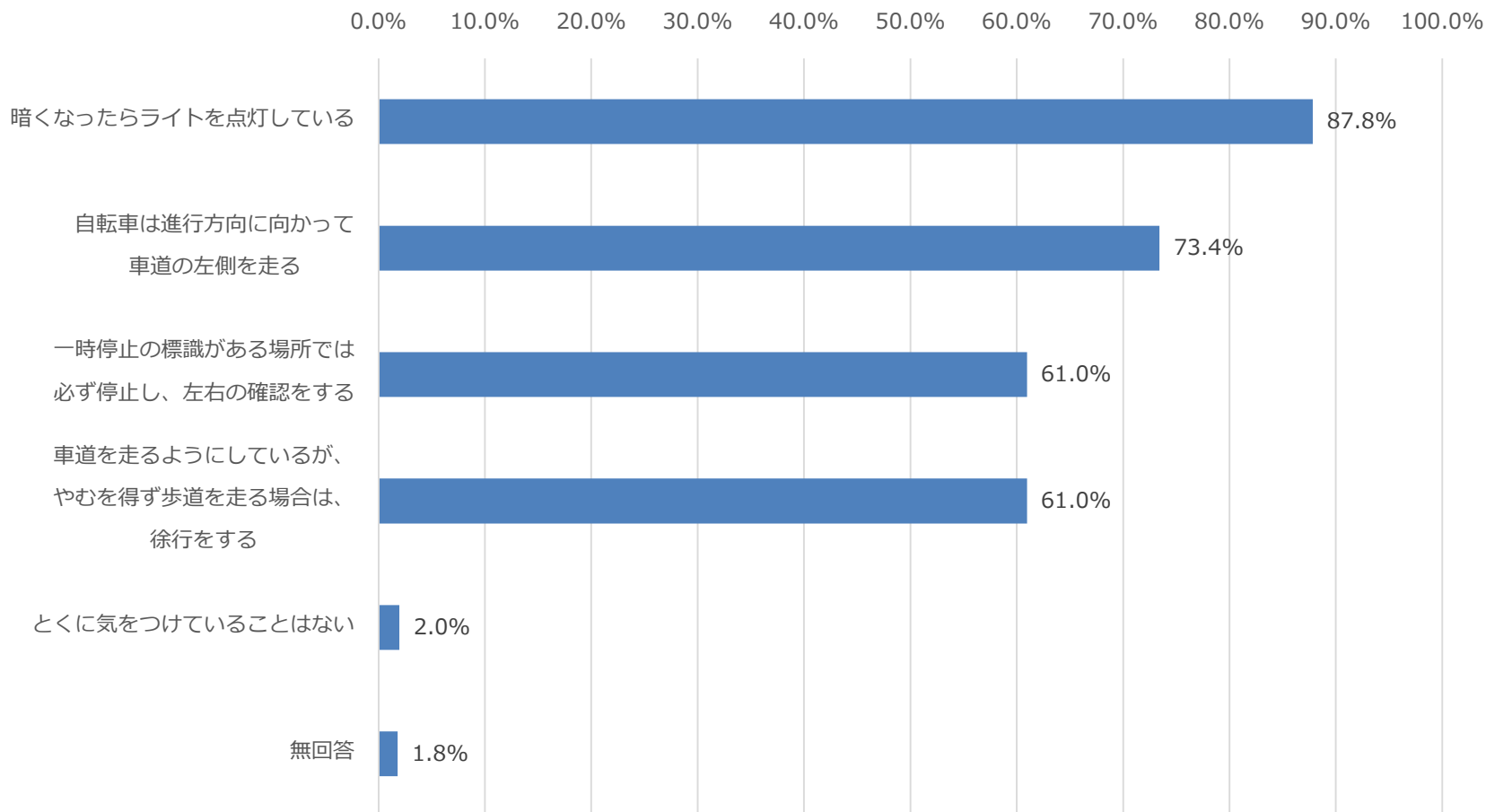
※自転車利用者の方に質問 (N=666、複数回答可)



## ■ 自転車通行ルールの認知度に関して

問：自転車を利用する時、あなたが気を付けていることを教えてください。

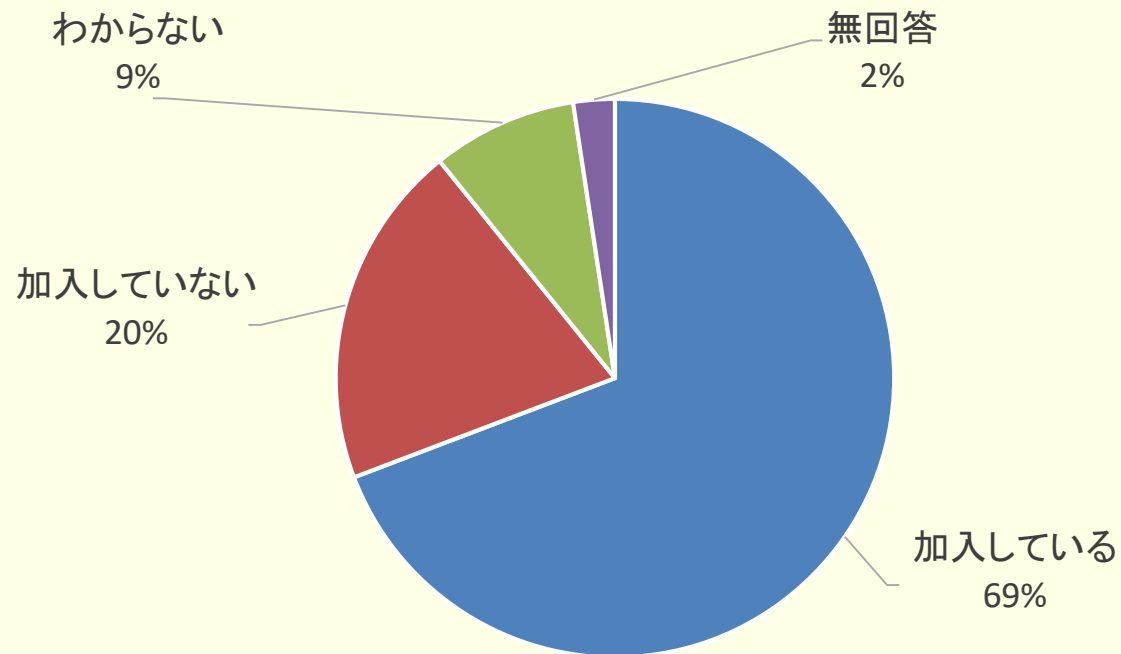
※自転車利用者だけに質問  
(N=666、複数回答可)



## ■ 自転車保険の加入率に関して

問：あなた自身は自転車保険に加入していますか。

※自転車利用者の中に質問（N=666）

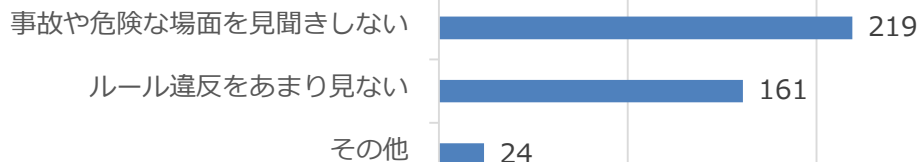


## ■ 自転車利用環境の満足度（まもる）に関して

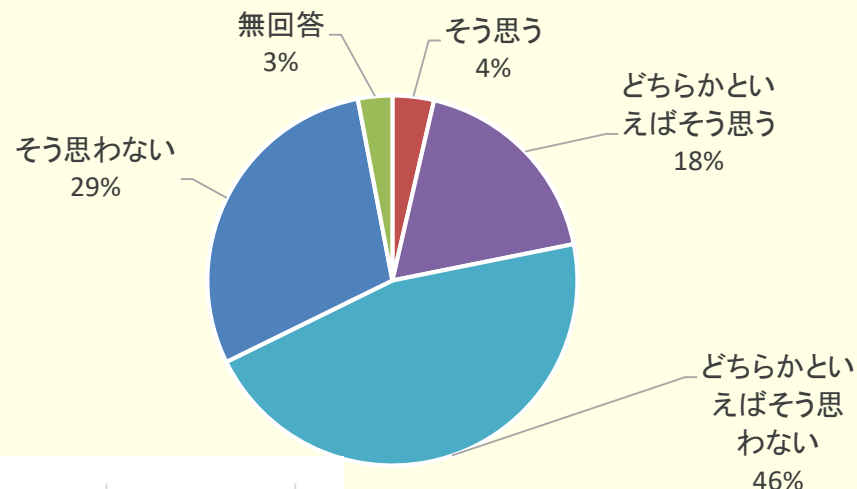
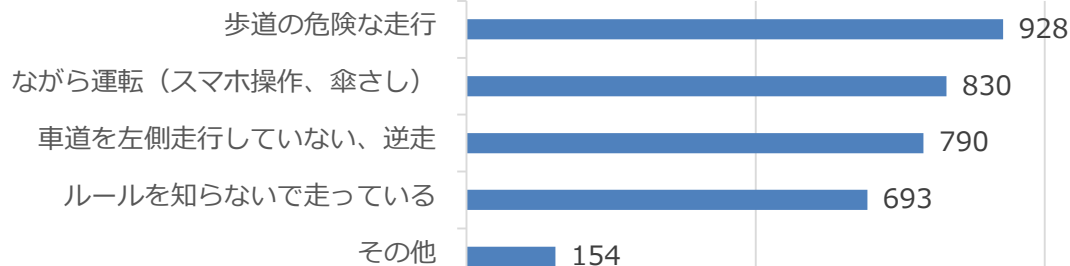
問：横浜市内は自転車の交通ルールが守られていると思いますか。

※全員に質問（N=1,767）

問：守られていると思う理由  
（N=386、複数回答可）



問：守られていると思わない理由  
（N=1,328、複数回答可）

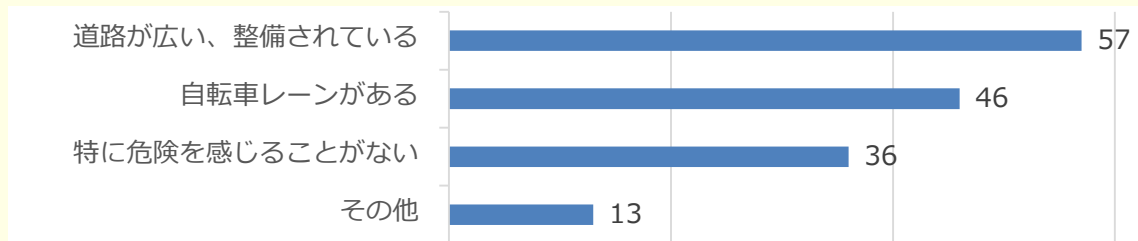


## ■ 自転車利用環境の満足度（はしる）に関して

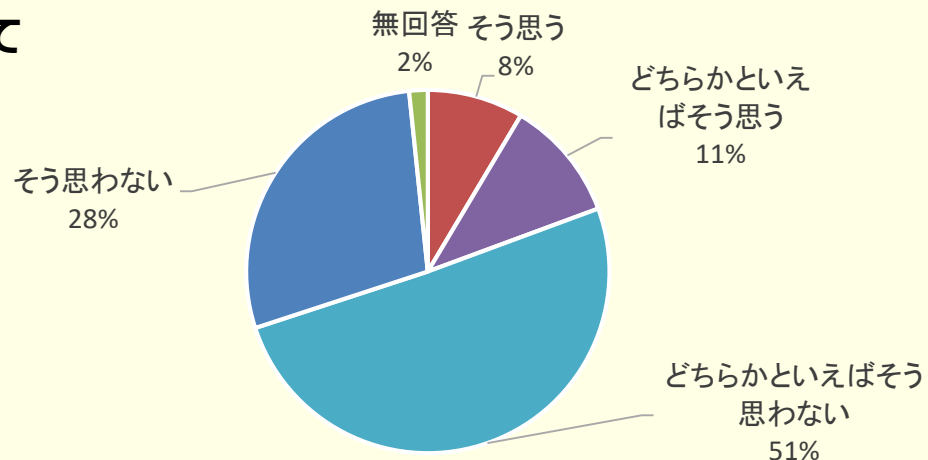
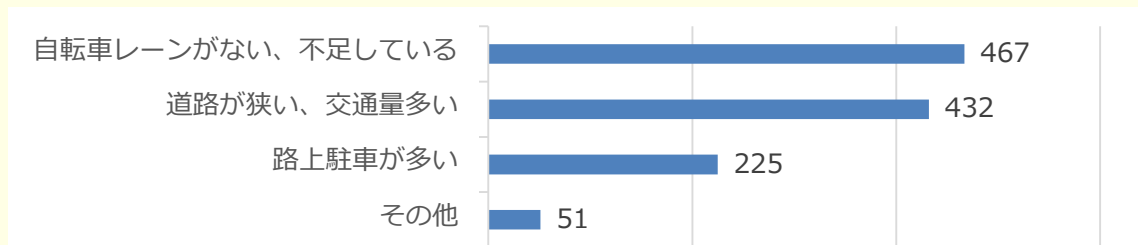
問：横浜市内で自転車を利用するとき、道路を安全・快適に走ることができる環境があると思いますか。

※自転車利用者のみ質問 (N=666)

問：あると思う理由  
(N=129、複数回答可)



問：あると思わない理由  
(N=526、複数回答可)

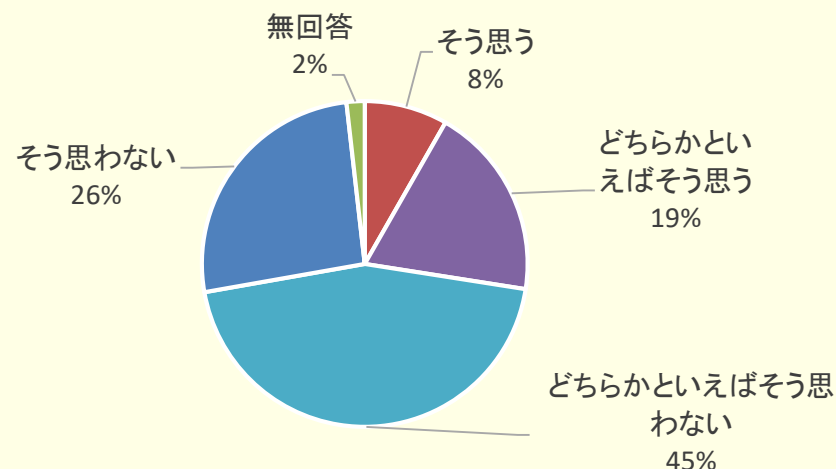




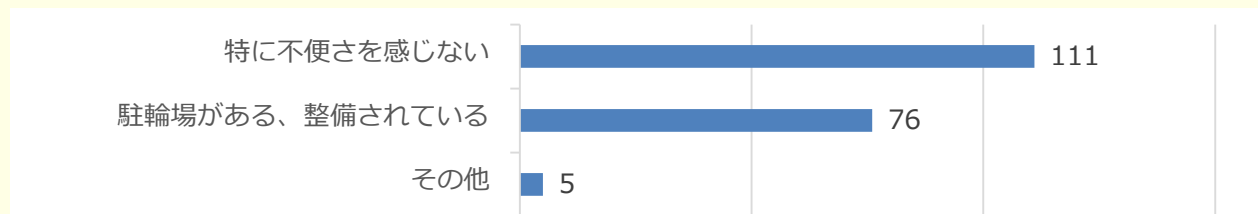
## ■ 自転車利用環境の満足度（とめる）に関して

問：横浜市内で自転車を利用するとき、  
自転車がとめやすい環境にあると思いますか。

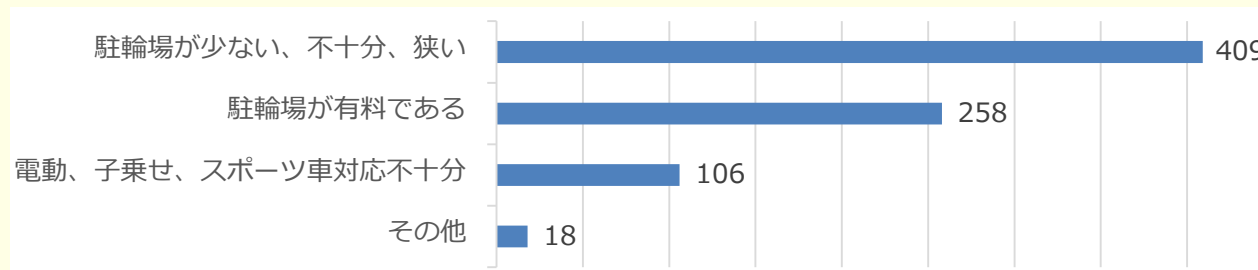
※自転車利用者のみ質問 (N=666)



問：あると思う理由  
(N=183、複数回答可)



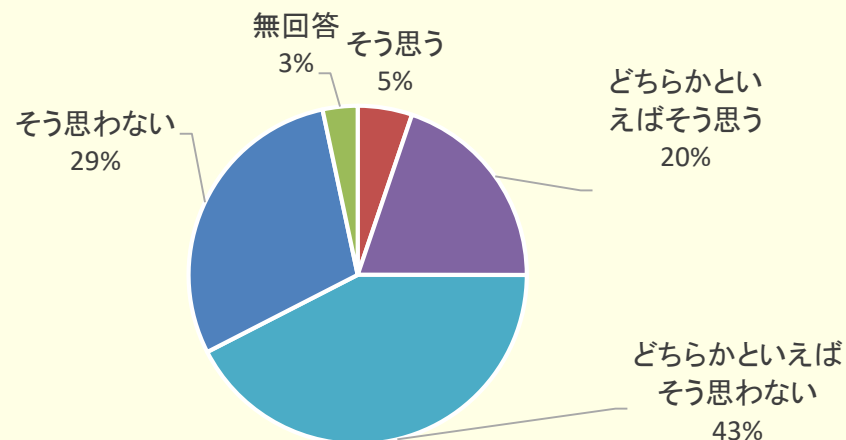
問：あると思わない理由  
(N=471、複数回答可)



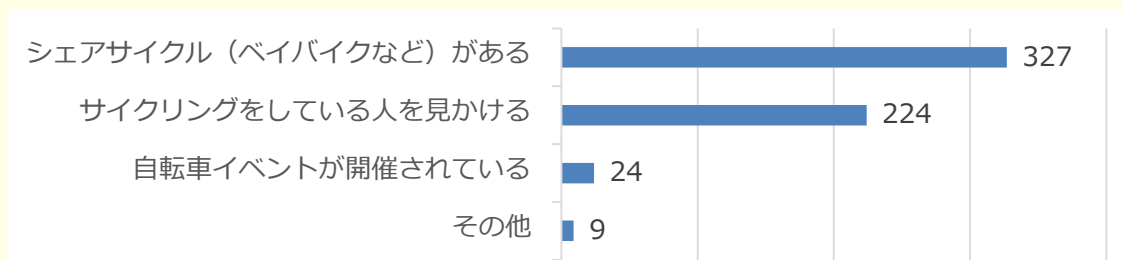
## ■ 自転車利用環境の満足度（いかす）に関して

問：横浜市は健康づくりやまちづくり・観光などに自転車が活用されていると思いますか。

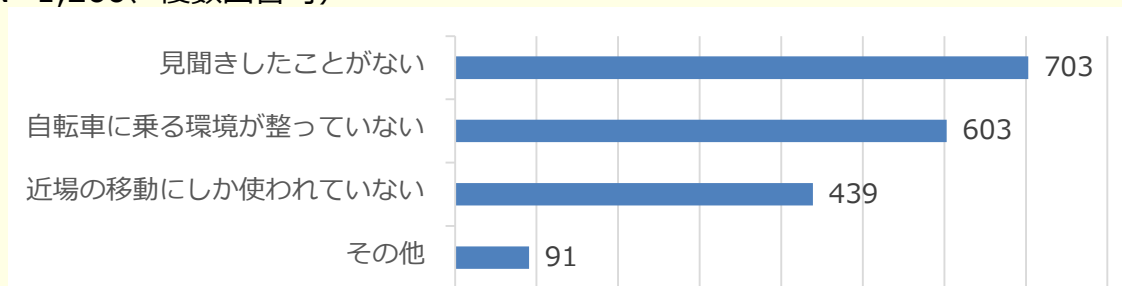
※全員に質問 (N=1,767)



問：活用されていると思う理由  
(N=442、複数回答可)



問：活用されていると思わない理由  
(N=1,266、複数回答可)



## 3

# 持続可能な自転車駐車場の あり方検討部会の報告について

開催回	開催日	議題	主な委員意見(要旨)
第1回	令和2年10月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と課題</li> <li>・検討の方向性</li> <li>・第2回目以降の議論のために必要な資料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車だけでなく、<u>パーソナルモビリティ</u>も考慮すべき。</li> <li>・<u>多様化する車両に対応した設備や料金体系</u>を議論の出発点と考える。</li> <li>・事業者の選定時に<u>一定のサービス水準</u>を盛り込むことで、最低限のサービスが担保でき、<u>公平性</u>も保たれるのではないか。</li> </ul>
第2回	令和2年12月25日	<p>(会議前に市営自転車駐車場現地視察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目に要請のあった資料の確認</li> <li>・答申の骨格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>子ども乗せ自転車の駐輪対策</u>を考えるべき。</li> <li>・<u>自転車の車種は増えており</u>、自転車駐車場として対応しきれていない。</li> <li>・<u>自転車とバイクを比較するとバイクの方が</u>自転車駐車場を利用しやすい状況であり、<u>バランス</u>を考えることが必要。</li> <li>・<u>料金は柔軟に変えられるように</u>すべき。</li> <li>・市全体の<u>交通体系</u>の中で、<u>他の公共交通機関とバランス</u>を取ることも大切。</li> <li>・<u>民営の駐輪場</u>に対しても、<u>市が関わるべき役割</u>を考える必要がある。</li> </ul>

開催回	開催日	議題	主な委員意見
第3回	令和3年 2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回での積み残しについてのまとめ</li> <li>・答申素案の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車は多様化しており、少し広めに駐輪ニーズを考えておいたほうがよい。</li> <li>・シニアの自転車利用も視野に入れて検討すべき。</li> <li>・自転車駐車場のフロアごとに料金設定する方法も考えられる。</li> <li>・従業員の駐輪場対策として、大規模な事務所に限定せず、事業所全般に広げてはどうか。</li> <li>・多様化する利用者ニーズについて、事業者(指定管理者)に対応策を積極的に提案いただくことも記載してはどうか。</li> </ul>

## 基本的な考え方

- 視点1 都市交通体系における自転車の役割の再認識
- 視点2 多様化する利用者ニーズに対応する駐輪環境の整備
- 視点3 既存施設の修繕と新規整備の両輪
- 視点4 管理運営手法の見直しと柔軟な料金体系の導入
- 視点5 利用目的に応じた市と民間の役割分担

## 主な実施施策

### 施策1

市営自転車駐車場の管理運営手法の見直し

### 施策2

市営自転車駐車場における適正な料金体系の導入

### 施策3

公民連携手法の導入による自転車駐車場の整備

### 施策4

民間による自転車駐車場整備の更なる促進